OTANI

HAKODATE

COLLEGE

2025講義概要
こども学科1年生

こども学科

＜教育目的＞
保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対して
あたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

＜教育目標＞
1. [多様な専門性を身につけた保育者の養成]
　　社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
2. [人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成]
　　他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、社会人としての人間形成に努める。
3. [心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成]
　　様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

＜学習成果＞
1. 保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
2. 子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
3. 豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
4. 保育教諭としての資質を身につけ、専門職として地域に貢献できる。

＜卒業認定・学位授与の方針＞
学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。
1. 保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
2. 子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
3. 地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

[講義概要]
授　業
（1）授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
（2）授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
（3）時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
（4）時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
（5）各講義の開講は次のとおりとする。

函館大谷短期大学　こども学科　履修系統図（令和7年度）

		学問、幅広い知識	保育者として必要な知識・技能、 子育て、子育て支援に有用な知識		保育者としての課題探求・実践	
分類	卒業認定・学位 授与の方針	教養を身に付ける科目	基礎、総論的な科目	応用的な科目	発展的な科目	学修の集大成科目
		0	1	2	3	4
教養科目	1	人間学Ⅰ				
	1		人間学Ⅱ			
	1	こころの科学				
	1	日本国憲法				
	3	障害者福祉				
	3	現代地域福祉論				
	2	情報処理演習				
	1・2	英語				
	2	英会話				
	1	健康科学論				
	2	健康とスポーツ				
	3	総合教養演習				
	1	生活と音楽				
専門科目	1・2		幼児音楽			
	1・2		保育音楽			
	1・2		音楽表現演習Ⅰ			
	1・2			音楽表現演習Ⅱ		
	2		音楽実践			
	2		幼児美術			
	2		保育造形			
	2		幼児体育			
	2		保育体育			
	2		基礎国語			
	1・2		児童文化Ⅰ			
	3		社会福祉			
	1		保育の心理学			
	1			子ども家庭支援の心理学		
	3			子育て支援		
	1			子ども家庭福祉		
	3			子ども家庭支援論		
	1		保育原理			
	1			保育原理Ⅱ		
	3		社会的養護Ⅰ			
	1			社会的養護Ⅱ		
	2		保育実習指導Ⅰ			
	1			保育実習指導Ⅱ		
	1			保育実習指導Ⅲ		
	3			保育実習Ⅰ		
	3				保育実習Ⅱ	
	3				保育実習Ⅲ	
	1			子どもの保健		
	1			子どもの食と栄養		
	1			子どもの健康と安全		
	1		乳児保育Ⅰ			
	1			乳児保育Ⅱ		
	1			特別支援教育基礎		
	1		教育カウンセリング			
	1		教育原理			
	1・3		保育者・教師論			
	1		幼児理解の理論			
	2			保育内容総論		
	1		教育心理学			
	1		教育経営論			
	2			教育課程論		
	1		保育内容研究Ⅰ（人間関係）			
	1・2		保育内容研究Ⅱ（言葉）			
	2		保育内容研究Ⅲ（環境）			
	2		保育内容研究Ⅳ（健康）			
	2		保育内容研究Ⅴ（表現）			
	2		保育内容研究Ⅳ（健康）			
	2		保育内容研究Ⅴ（表現）			
	2			保育内容指導Ⅰ（健康）		
	2			保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）		
	2			保育内容指導Ⅲ（環境）		
	1		教育方法論			
	1			教育実習事前事後指導		
	3				教育実習	
	1			こども園・幼稚園体験活動		
	1・2・3					保育・教職実践演習（幼稚園）
	2		ピアノ表現法Ⅰ			
	2			ピアノ表現法Ⅱ		
幼児教育 コース	2				こどもの造形と遊び	
	2				こどもの音楽と遊び	
	2				こどもの健康と遊び	
保育福祉 コース	3				地域福祉論	
	3				ボランティア活動論	
	3				福祉住環境コーディネーター	
保育心理 コース	1				教育カウンセリング心理学	
	1				セラピー概論	
	1				保育心理演習	
自由選択科目	2					幼児総合研究
	2・3			国際保育理解		
	3	ウィンタースポーツ				

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2025年（1年）		2026年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事（任）
									前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人間学Ⅰ	K0E101	4	1		2	講義	2	2				◎		◎	
	人間学Ⅱ	K1E102	4	1		2	講義	2		2			△		○	
	こころの科学	K0E103	1	1		2	講義	2	2				△		◎	
	日本国憲法	K0E104	4	1		2	講義	2	2				△	◎	○	
	障害者福祉論	K0E105	4	3		2	講義	2				2	△		○	◎
	現代地域学論	K0E106	4	3		2	講義	2					△			
	情報処理演習	K0E107	4	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	英語	K0E201	2	1・2		2	演習	2			2		△		◎	
	英会話	K0E202	2	2		2	演習	2		2			△	◎	○	
	健康科学論	K0E301	1・2 3・4	1		1	講義	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	K0E302	1・2 3・4	2		1	実習	3	3				△	◎	◎	
	生活と音楽	K0E303	1・2・3	1		2	演習		2				△			
	総合教養演習	K0E401	4	3		1	演習		通年		通年		△			
専門教育科目	幼児音楽	K1S301	1・3	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育音楽	K1S302	1・3	1・2		1	演習	2		2			○		◎	
	音楽表現演習Ⅰ	K1S303	1・3	1・2		1	演習	2			2		◎		◎	
	音楽表現演習Ⅱ	K2S304	1・3	1・2		1	演習	2				2	○		◎	
	音楽実践	K1S305	3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児美術	K1S306	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育造形	K1S307	1・3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児体育	K1S308	1・2 3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育体育	K1S309	1・2 3・4	2		1	演習	2				2	○		◎	
	基礎国語	K1S101	2	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	児童文化Ⅰ	K1S102	1	1・2	●	2	講義	2			2		◎		◎	
	社会福祉	K1S103	4	3		2	講義	2	2				○		◎	◎
	保育の心理学	K1S201	1・2	1		2	講義	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	K2S202	1・4	1		2	講義	2			2		○		◎	
	子育て支援	K2S203	4	3		1	演習	2		2			○		◎	
	子ども家庭福祉	K2S204	1	1		2	講義	2		2			◎		◎	
	子ども家庭支援論	K2S205	1・4	3		2	講義	2			2		○		◎	
	保育原理	K1S104	1・4	1		2	講義	2	2				◎		◎	◎
	保育原理Ⅱ	K2S105	1・4	1		2	講義	2				2	○		◎	
	社会的養護Ⅰ	K1S106	1・4	3		2	講義	2		2			○		◎	
	社会的養護Ⅱ	K2S107	4	1	●	1	演習	2				2	○		◎	
	保育実習指導Ⅰ	K1S401	1・4	2		2	演習	4		4			○		◎	
	保育実習指導Ⅱ	K2S402	1・4	1		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習指導Ⅲ	K2S403	1・2	1		1	演習	1			1		○			
	保育実習Ⅰ	K2S404	1・2 3・4	3		4	実習	12		6	6		○		◎	
	保育実習Ⅱ	K3S405	1・2 3・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	保育実習Ⅲ	K3S406	2・4	3		2	実習	6			6		○			
	子どもの保健	K2S206	2・4	1		2	講義	2				2	◎		◎	
	子どもの食と栄養	K2S207	1	1		2	演習	2	2				○		◎	
	子どもの健康と安全	K2S208	2・4	1		1	演習	2				2	◎		◎	
	乳児保育Ⅰ	K1S209	1	1		2	講義	2	2				○		◎	
	乳児保育Ⅱ	K2S210	1	1		1	演習	2		2			○		◎	

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2025年（1年）		2026年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事（任）
									前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	特別支援教育「基礎」	K2S108	2・4	1	●	2	演習	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	K1S109	1・2	1		2	講義	2			2		○	◎		
	教育原理	K1S110	1・4	1		2	講義	2		2			◎	◎	◎	◎
	保育者・教師論	K1S111	1・2 3・4	1・3		2	講義	2				2	○	◎	◎	
	幼児理解の理論	K1S112	1・2・3	1		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容総論	K2S211	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育心理学	K1S113	4	1		1	演習	2	2				◎	◎	◎	
	教育経営論	K1S114	1・4	1・3		1	講義	1			1		○	◎		
	教育課程論	K2S115	1	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ（人間関係）	K1S310	1・4	1		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ（言葉）	K1S311	1・2	1・2		2	演習	2		2			◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ（環境）	K1S312	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ（健康）	K1S313	1・2 3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ（表現）	K1S314	1・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ（健康）	K2S315	1・2 3・4	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）	K2S316	1・2・3	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ（環境）	K2S317	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育方法論	K1S116	1・4	1		2	講義	2	2				○	◎		
	教育実習事前事後指導	K2S407	1・4	1		1	演習	2	1		1		○	◎		
	教育実習	K3S408	1・2 3・4	3		3	実習	9				9	○	◎		
	こども園・幼稚園体験活動	K2S409	1・2・3	1		1	実習	3	3				○	◎		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	K4S410	1・2 3・4	1・2・3	●	2	演習	2				2	○	◎	◎	
	ピアノ表現法Ⅰ	K1S318	3	2		1	演習	2	1	1			○			
	ピアノ表現法Ⅱ	K2S319	3	2		1	演習	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。
卒業するためには、その他に△印の中から12 単位以上、○印の中から23 単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

※実習履修について
―教育実習（幼稚園本実習）―
教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

―保育実習（保育園・施設）―
実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね10 日間80 時間以上とする。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2025年（1年）		2026年（2年）		備考
									前期	後期	前期	後期	
幼児教育コース	こどもの造形と遊び	K3S501	1・2 3・4	2		1	演習	2				2	
	こどもの音楽と遊び	K3S502	1・2・3	2		1	演習	2			2		
	こどもの健康と遊び	K3S503	1・2 3・4	2		1	演習	2				2	
保育福祉コース	地域福祉論	K3S604	4	3		2	講義	2			2		社会福祉主事（任）
	ボランティア活動論	K3S602	4	3		2	講義	2				2	
	福祉住環境コーディネーターⅠ	K3S603	4	3		1	演習	2			2		
保育心理コース	教育カウンセリング心理学	K3S701	1・2	1		1	演習	2				2	
	セラピー概論	K3S702	1・2	1		2	講義	2			2		
	保育心理演習	K3S703	1・2	1		1	演習	2			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2025年（1年）		2026年（2年）		備考
									前期	後期	前期	後期	
	幼児総合研究	K4F101	2・3	2		2	演習	2				集中	
	国際保育理解	K2F102	4	2・3		1	演習	3		集中		集中	海外研修
	ウインタースポーツ	K0F103	1	3		1	演習	4				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数　：７単位

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
人 間 学 Ⅰ	教養教育科目	講 義	2	1	K0E101

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
福島　重	○	前 期	必 修		◎	

授 業 概 要	人間学とは、「自分と向き合う」学問である。人間の根源的苦しみや、現代社会が抱える問題を深く考えることは、そこに生活する「自分自身」をみていくことに繋がっていく。この授業では、その「自分とは何か」を探るための道標として仏教を用い、それをもとに洞察力・考察力を養う。
到 達 目 標	自分自身を見つめることができる基礎的な洞察力・考察力を身に着けることを目標とする。
授 業 の 方 法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎回、前回の復習をしてから授業に臨むこと(1時間) 授業後、当日の授業の内容を振り返り、自分なりの結論を考えること(1時間) 毎回、課題を出すので、それに取り組むこと(2時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	人間にとって恋愛とは？
2	「人間学」とは何なのか？	10	自我と利他
3	仏教では「死」をどう受け止めるのか？	11	人間と災害
4	仏教では「病」をどう受け止めるのか？	12	異文化とは何か？
5	仏教では「老」をどう捉えるのか？	13	仏教と社会 ①差別について
6	仏教では「生」をどう捉えるのか？	14	仏教と社会 ②身近な差別
7	人間は弱い生き物なのか？	15	人間の真の幸福とは？
8	仏教における「欲」と社会における「欲」		

教科書・参考文献	特になし
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である
成績評価の方法 及び基準	成績は、小テスト(40%)、期末テスト(60%)の絶対評価を基本とする。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
人間学Ⅱ	教養教育科目	講 義	2	1	K1E102

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
福島 重	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	私たちは、これまで生きてきたなかで、気付かぬうちに様々な「文化」に触れてきた。なかには潜在的に持ち合わせているにも関わらず、私たち自身が気づいていない「文化」もある。 本講座は、そのような「潜在的な文化認識」に焦点を当て、その淵源をたずね、考察していくこと を通じて、自分が知らない「様々な文化によって構築されている自分自身」を知ることを目指す。
到 達 目 標	本講座では、様々な文化に触れることを通して、「文化への理解」を深めること、加えて、それに向けた基礎的な考察力・洞察力を育むことを目標とする。
授 業 の 方 法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	講義ノートを丁寧にまとめておくこと(1時間) 授業に関連する書籍を読むこと(3時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	近代文学のなかの日本文化① ― 一般人の宗教観 ―
2	文化とはなにか？	10	絵本のなかの日本文化② ― 現代における家族像の変化 ―
3	宗教と潜在的意識	11	近代文学のなかの日本文化② ― 日本の婚姻関係 ―
4	遊びのなかの文化① ― オニとは何か？ ―	12	生活のなかの文化① ― オカルトと占い ―
5	遊びのなかの文化② ― オニのルーツ ―	13	生活のなかの文化② ― 年中行事 ―
6	遊びのなかの文化③ ― 日本におけるオニ ―	14	外国文化と日本文化 ―「死後の世界」の比較 ―
7	遊びのなかの文化④ ― ケガレと遊び ―	15	いかにして文化を伝えるか？
8	絵本のなかの日本文化① ― 絵本からみる日本の他界観 ―		

教科書・参考文献	特になし
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	小テスト(40%)、期末テスト(60%)の絶対評価。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。(再試験はありません)
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
こころの科学	教養教育科目	講 義	2	1	K0E103

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	本講義では，人の心のしくみを科学的に理解しようとする態度を養い，自己理解や子どもの理解と対応，保育・幼児教育にも関連づけて考えていくことを目的とする。
到 達 目 標	・心理学では，どのような実験等を通して知見が得られているか理解できる。 ・心理学に関する基本的な知識・技法を獲得し，自身の言葉で説明することができる。
授 業 の 方 法	講義資料を用い，講義形式で行う。また，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	事前学習として，次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習する。（2時間） 事後学習として，講義資料を読んで復習し，学習した内容の要点をノートにまとめる。（2時間）
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	対人関係の心理学② エゴグラムの実施
2	科学としての心理学	10	集団の心理学とリーダーシップ理論
3	心理療法とカウンセリング ―類似点と相違点―	11	感覚と知覚のメカニズム
4	生涯発達心理学① 乳幼児期～児童期	12	感情の心理学 －感情と情動，ストレス，フラストレーション，スラストレーションに対する反応など－
5	生涯発達心理学② 思春期～青年期	13	動機づけの心理学 －内発的動機づけと外発的動機づけについて－
6	生涯発達心理学③ 成人期～老年期	14	学習理論 ―多様な行動獲得のメカニズム，強化と罰，ハロー効果，ピグマリオン効果など―
7	パーソナリティ心理学 ―パーソナリティ諸理論，パーソナリティの形成と環境など―	15	講義総括
8	対人関係の心理学① －好意・恋愛・友情，ソーシャルスキルなど－		

教科書・参考文献	教科書：サトウ タツヤ・渡邊芳之「心理学・入門〔改訂版〕心理学はこんなに面白い」有斐閣 参考文献：藤本忠明他編著「ワークショップ大学生活の心理学」ナカニシヤ出版
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにする。また，具体的な学習方法について提示する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験（80%），授業後に提出する感想カード（20%）によって総合的に評価し，単位認定を行う。
実務経験と担当科目内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
日本国憲法	教養教育科目	講 義	2	1	K0E104

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
伊藤　泰	○	前 期	選 択	◎	○	

授 業 概 要	日本国憲法の学習領域中，主として人権分野について学ぶ。人権の歴史的展開をふまえて，個別の人権規定を中心に基本的な学説や判例を検討する。
到 達 目 標	本講義では，日本国憲法の内容について知り，特に人権についての知識を深めることを目的として、具体的な事例を交えつつ授業を行う。
授 業 の 方 法	講義形式で行う。なお，授業内にて質疑応答などアクティブ・ラーニング形式を導入して授業を行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	予習については，参考書等で次回の授業内容に関することがらを調べておくことが望ましい（1時間）。 復習については，受けた授業でとったノートの内容を振り返っておくことが望ましい（1時間）。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	表現の自由
2	立憲主義と法の支配	10	経済的自由権
3	国民主権の意味	11	社会権
4	基本的人権という観念の特質	12	三権分立
5	基本的人権の限界はどこにあるか？	13	議院内閣制
6	幸福追求権	14	司法審査制
7	法の下の平等	15	戦争と平和主義の理念
8	内心の自由		

教科書・参考文献	なし
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	理解度を確認したうえで，定期的に解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	期末定期試験のみの結果に基づき成績評価を行う。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
情報処理演習	教養教育科目	演 習	2	1	K0E107

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
三浦 久典	○	前 期	選 択	◎	○	

授 業 概 要	MicrosoftWord,Excel,PowerPointを通して書類作成や表計算など実務的な操作 活用方法を習得するとともに、コンピュータの基本知識・情報モラルを習得することを目指す。
到 達 目 標	幼児教育者として必要な基礎的な情報処理技能の習得。 メールの送受信ができること。Wordを使い見やすい文書作成ができること。Excelを使いデータ整理ができること。PowerPointを使い発表ができること。
授 業 の 方 法	テキストに従い操作方法の説明を行ったうえで、各自課題作成を行います。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	事前練習(1時間) 事後練習(1時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	Excelの基本操作
2	Windowsの基本操作、メールの設定、送受信	10	Excel　データの整理と表計算
3	Word基本操作、文章のレイアウトと整え方	11	Excel指導案の作成(構成とデザイン)
4	Word園だよりの作成(基本編 / 構成とデザイン)	12	Excelを使った課題(指導案の作成)
5	Word園だよりの作成(応用編 / 配色・デザインの工夫)	13	PowerPointの基本操作
6	Word園だよりの作成(発表 / ディスカッション)	14	PowerPointを使ったプレゼンテーション
7	Wordを使った課題(園だよりの作成)	15	PowerPointを使った課題(プレゼンテーション)
8	Word指導案の作成(表を使ったレイアウト作成)		

教科書・参考文献	なし
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	提出課題を添削し、合格ラインまで繰り返しの指導を取る。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	平常点40%、Word提出課題20%、Excel提出課題20%、PowerPoint提出課題20%
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
英会話	教養教育科目	演 習	2	1	K0E202

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
村田 あきの	○	後 期	選 択	◎	○	

授 業 概 要	この授業では、保育現場で使用できる基本的な英語についてフレーズを中心に学ぶ。コミュニケーションに実践的に使用できる汎用性の高い口頭表現について、状況を想定しながら繰り返し練習する。
到 達 目 標	1. 英語による簡単な表現を使用して、適切な意思表示ができる。 2. 保育の現場で使用される短く汎用性のある口頭表現がとっさに使用できる。 3. 多様な文化背景を持った子どもや保護者とのコミュニケーションについて理解を深める。 4. 教養としての英語の知識を身に付ける。
授 業 の 方 法	音声を聞いてシャドーイングをする。学習する表現に合わせてペアワークやロールプレイをする。 受講者の理解度や進捗状況に応じて授業内容が変更される場合がある。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業で配布された資料やノートの復習(1時間) 指定箇所のシャドーイング(30分) 教科書の予習(30分) 製作や発表の準備(2時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション・英語で折り紙を折る	9	工作やお絵かきで使う道具・英語で「かぐや姫」を読む
2	英語での自己紹介	10	園外散歩での会話・場所を表す表現・ミニテスト
3	人に何かを頼む表現	11	集団で行う園活動・教室内のもの場所を示す
4	園内の案内・位置を伝える表現	12	園庭での会話・指示する時の表現
5	園の構成員・戸外での道案内・ミニテスト	13	遊具の名前・英語で「桃太郎」を読む
6	登園時の会話・今日の調子を話す	14	英語絵本の読み聞かせ－発表の準備－
7	持ち物・数字・手遊び歌	15	英語絵本の読み聞かせ－ミニテスト－
8	工作時間の会話・好きな物や嫌いな物を聞く表現		

教科書・参考文献	【教科書】 土屋麻衣子(2015)『Happy English for Childcare』金星堂
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テストはロールカードによるロールプレイまたは筆記テストを実施する。テスト終了後、全体にフィードバックを行う。ミスの多い項目については、再度ペアワーク等を実施し個別にフィードバックを行い、繰り返し練習する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	テスト60%(各20%) ペアワークやロールプレイによる発表　40%
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
健康科学論	教養教育科目	講 義	1	1	K0E301

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土橋 史人	○	前 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	本講義では，健康の維持増進を図るために，健康の概念や健康に影響を与える生活習慣，環境要因などについて学び，自身の生活習慣を見直し，生涯にわたり健康に過ごすための知識を学ぶ。
到 達 目 標	健康の維持増進を図るために，健康の概念や健康に影響を与える生活習慣等に関する教養としての理解を深め，生活習慣を見直し，生涯にわたり健康に過ごすための力を身に付けるための知識を付け，さらにその知識を活用するための実践的な方法を理解することを目的とする。
授 業 の 方 法	講義形式で講義を行い，単元ごとに資料を配布し学びを深める。また，毎時間グループディスカッション及び発表を実施する他，レポートを提出し，理解度を確認しながら進めていく。その他，状況に応じて学内にあるPCを使用する場合もある。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	事前に与えられた課題について各回1時間程度の予習が必要である。また，授業内テストについては，それまでの講義内容の復習が1時間以上必要となる。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	メンタルヘルスと健康
2	健康の概念	10	する・見る・支える
3	生活習慣病	11	コーチングの基礎理論
4	運動と健康	12	コーチングにおける現場での活用方法
5	身体のしくみ	13	チームビルディング
6	トレーニングの基礎理論	14	女性とスポーツ
7	トレーニングにおける現場での活用方法	15	運動プログラムの作成（まとめ）
8	栄養と健康		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	単元毎にレポートを実施し，授業内で解答と解説を行い，理解度を確認する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	業内テスト（80%）（授業内テスト2回（40点×2）の受験を必須とする），提出されたレポート等の課題評価（20%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
健康とスポーツ	教養教育科目	演 習	1	1	K0E302

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土橋 史人	○	前 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	運動を通しスポーツへの理解を深め，心身ともに健康で活発的な身体づくりを行い，生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高める。
到 達 目 標	運動への意欲を高め，教養として生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高めることを目的として演習を行う。
授 業 の 方 法	実技形式で行う。また，バレーボールやフットサル，バスケットボールといった球技スポーツの特性を踏まえグループを形成し，ディスカッション等を含む形で演習を進める。他にも，バドミントンやニュースポーツも実施する。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	各種目におけるルール理解のための各回1時間程度の予習が必要である。また，レポートのための復習が1時間程度必要になる。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	バスケットボール（基本的な技術）
2	レクリエーション・スポーツ	10	バスケットボール（実技テスト）
3	ニュースポーツ	11	バドミントン（基本的な技術）
4	バレーボール（基本的な技術）	12	バドミントン（実技テスト）
5	バレーボール（ゲーム）	13	スポーツ・運動遊び
6	バレーボール（実技テスト）	14	スポーツ・運動遊び（屋内競技）
7	フットサル（基本的な技術）	15	まとめ（レポート提出）
8	フットサル（実技テスト）		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	5回のレポート提出を実施し，授業内で解答と解説を行い，理解度を確認する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内実技テスト（50%），提出されたレポート等の課題評価（50%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
生活と音楽	教養教育科目	演 習	2	1	K0E303

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡邉 朋実	○	前 期	選 択			

授 業 概 要	「幼稚園教育要領」等を参照しながら、ねらいや計画性をもち、幼児の音楽活動を行うための基礎的な指導法を学ぶ。また、行事における合奏指導の基礎的な知識を身につけ、保育者として求められる実践力を高める。
到 達 目 標	1.身体的な音楽表現における基礎的な考え方を理解する。 2.リトミックをはじめとする身体的な音楽表現の知識と技能を学ぶ。 3.幼児の発達に応じた楽譜の編曲方法や、行事における合奏の指導法を習得する。
授 業 の 方 法	演習では協同学習を取り入れながら、実践的な活動を中心に進めていく。ただし、基本的な理論や知識の講義は、スライドを用いた講義形式で進める。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	1.配布プリントを基に授業内容を振り返り、幼児の発達に応じて楽譜を編曲する(2時間) 2.行事を想定した合奏の指導計画を考え、模擬授業の準備を行う(2時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	「幼稚園教育要領」等における 身体的な音楽表現とは	9	合奏づくり(1) 小グループごとに編曲を作成
2	身体的な音楽表現(1) リトミックを用いた身体的な音楽表現の基本	10	合奏づくり(2) 小グループごとに合奏を練習
3	身体的な音楽表現(2) 教具を使った音楽表現の方法	11	合奏づくり(3) 小グループごとに合奏を発表
4	身体的な音楽表現(3) 小物打楽器、手作り楽器を用いた音楽表現の方法	12	音楽表現の実践法(1) 幼児の実態に応じた指導計画の作成
5	行事における合奏の指導法(1) 身体的な音楽表現を導入とする合奏の指導法	13	音楽表現の実践法(2) 模擬授業の準備【演習】
6	行事における合奏の指導法(2) 小物打楽器の指導法・指揮法	14	音楽表現の実践法(3) 小物打楽器を活用した模擬授業【演習】
7	合奏の編曲(1) 幼児の実態に応じた編曲方法	15	発表のフィードバック 全体講義復習とまとめ、ふりかえり
8	合奏の編曲(2) 編曲の実践		※授業計画は進捗状況によって変更する場合があります。

教科書・参考文献	【参考文献】授業内で適宜紹介するが、以下一例を挙げる。 バンドゥレスパー著　石丸由理訳(2012)『ダルクローズのリトミック』ドレミ楽譜出版社 細田淳子(2006)『わくわく音遊びでかんたん発表会』 鈴木出版 文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	ワークシートの回収後、必要に応じて個別あるいは全体にフィードバックを行う。グループワークや発表においても、個別またはグループごとにフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業中のワークシート、演習などで作成した課題(40%)、模擬授業の発表(40%)、授業における貢献度(20%)を到達目標に照らし合わせて総合的に判断する。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
総合教養演習	教養教育科目	演 習	1	1・2	K0E401

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科担当教員	○	通 年	選 択			

授 業 概 要	社会人としての基礎力を身につけるためには、総合的な一般教養に磨きをかけることが求められます。建学の精神の下、保育者としてのライフスタイルを形成するための基礎知識を学びながら、実践的に活用できる力を養います。
到 達 目 標	多様な職業観を養い個々の資質の向上を目指すとともに、保育者としてあるべき基礎教養を深めることで基本的なふるまいができことを目的とします。
授 業 の 方 法	オムニバス形式で実施。卒業までの2年間で学ぶこととし、講義の実施日程等については順不同で実施することとし、その都度連絡をする。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	予習として、日頃から新聞を読み現代社会の状況に関心をもつ(1時間)。 講義配布資料等の見直しで復習する(1時間)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	基礎教養Ⅶ(危機管理研修)
2	基礎教養Ⅰ(建学の精神)	10	基礎教養Ⅶ(幼稚園・認定こども園キャラバン)
3	基礎教養Ⅱ(学科特別講座)	11	キャリア形成Ⅰ(求人票)
4	基礎教養Ⅲ(花まつり)	12	キャリア形成Ⅱ(エントリー方法)
5	基礎教養Ⅳ(危機管理研修)	13	キャリア形成Ⅲ(履歴書)
6	基礎教養Ⅴ(講演会)	14	基礎教養Ⅷ(生活とリスク)
7	基礎教養Ⅵ(報恩講)	15	基礎教養Ⅸ(危機管理研修)
8	基礎教養Ⅳ(総合実践発表)		

教科書・参考文献	授業内で適宜配布、紹介。
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内で実施する課題については随時フィードバック。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の方針「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内の提出課題を100%評価の原則とします。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
幼児音楽	専門教育科目	演 習	2	1	K1S301

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土谷 育代	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	子どもの音楽表現活動を支えるために、保育者に必要な音楽の基礎知識とピアノの基礎技能を学び、豊かな表現力を身につける。
到 達 目 標	・保育者として必要とされる基礎的なピアノ演奏ができる。 ・基礎的な音楽理論を説明でき、楽譜を読むことができる。 ・子どもの歌を豊かな表現で、弾くことができる。
授 業 の 方 法	教科書と配布プリントを用い、音楽理論を講義形式、ピアノ演奏をML教室にて演習形式で行う。質疑応答などアクティブ・ラーニング形式を導入する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日30分～1時間以上のピアノ練習が必要。 次の授業までに音楽理論の予習・復習と課題に1時間程度が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション 保育者に必要な音楽表現	9	音階と調② ピアノ演奏⑦ト長調の子どもの歌
2	譜表と音名 ピアノ演奏①片手練習	10	和音とコードネーム① ピアノ演奏⑧ト長調の子どもの歌
3	音符と休符 ピアノ演奏②片手練習	11	和音とコードネーム② ピアノ演奏⑨ヘ長調の子どもの歌
4	リズムと拍子 ピアノ演奏③両手練習	12	ピアノ演奏⑩ヘ長調の子どもの歌
5	記号、用語 ピアノ演奏④ハ長調の曲	13	音楽理論小テスト
6	音程① ピアノ演奏⑤ハ長調の子どもの歌	14	ピアノ演奏発表の曲
7	音程② ピアノ演奏⑥ハ長調の子どもの歌	15	ピアノ演奏発表 まとめ
8	ピアノ演奏小テスト 音階と調①		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	教科書:楠井淳子著『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現』ふくろう出版、神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 参考文献:橋本晃一編著『おとなのためのピアノ教本:Ⅰ』ドレミ楽譜出版社、本廣明美・加藤照恵編著『基礎から学べるピアノ1, 2, 3』ドレミ楽譜出版社
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	音楽理論では、課題の解説、小テストと提出課題の採点、解説を行う。ピアノ演奏では授業時に助言を行い、小テストと発表の後にも助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ピアノ演奏発表(50%) 課題、音楽理論小テスト、ピアノ演奏小テスト(50%)
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育音楽	専門教育科目	演 習	1	1	K1S302

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土谷 育代	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	「幼児音楽」での音楽理論とピアノ演奏を踏まえて、保育者に必要な音楽の基礎的な知識と技能を学ぶ。子どもの歌のピアノによる弾き歌い、手あそび、リトミックを通して、音楽の楽しさを感じ音楽表現することを身につける。
到 達 目 標	・子どもの歌のピアノ演奏と弾き歌いを豊かな表現で演奏することができる。・子どもの歌のコードネームによる基礎的な伴奏付けと移調奏ができる。・手あそび、リトミックを感性豊かに表現できる。
授 業 の 方 法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。質疑応答、グループ・ワークを導入する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日30分～1時間以上のピアノ演奏と弾き歌いの練習が必要。次の授業までに音楽理論の予習・復習、課題に1時間程度が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション ピアノの弾き歌いについて	9	コードネーム⑦セブンスコード ピアノ弾き歌い小テスト②
2	和音とコードネーム ピアノ演奏とピアノ弾き歌い①	10	手あそび③創作
3	コードネーム①単音伴奏 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い②	11	手あそび④創作発表 コードネーム⑧転回形・移調奏 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い⑥
4	ピアノ弾き歌い小テスト① コードネーム②単音伴奏	12	コードネーム⑨いろいろな伴奏形と変奏 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い⑦
5	コードネーム③メジャーコード ピアノ演奏とピアノ弾き歌い③	13	音楽理論小テスト ピアノ演奏とピアノ弾き歌い⑧
6	コードネーム④メジャーコード ピアノ演奏とピアノ弾き歌い④	14	リトミック ピアノ弾き歌いの発表の曲
7	手あそび①概要・実践 コードネーム⑤マイナーコード	15	ピアノ弾き歌いの発表 まとめ
8	手あそび②発表 コードネーム⑥セブンスコード ピアノ演奏とピアノ弾き歌い⑤		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	教科書:楠井淳子著『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現』ふくろう出版、神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 参考文献:西海聡子他著『心をつなぐ保育のためのいっしょに歌おう！あそび歌』カワイ出版
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、ピアノ弾き歌いの小テストと発表の後にも助言を行う。 課題、手あそび発表では解説、助言を行う。提出課題、音楽理論小テストには採点と解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ピアノ弾き歌い発表(50%) 課題、発表、音楽理論小テスト、ピアノ弾き歌い小テスト(50%)
実務経験と担当科目 内容との関連	

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
音楽実践	専門教育科目	演習	1	1	K1S305

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
土谷 育代	○	後期	選択		◎	

授業概要	子どもの歌唱活動を支援するために必要な基礎的な知識と歌唱を学習する。子どもの歌、合唱、あそびうたなどを楽しみ歌うことを通して、歌唱力と表現力を身につける。
到達目標	・正確な音程とリズムで歌うことができる。・歌詞の内容、曲について解釈し感性豊かな表現をすることができる。・子どもの歌の歴史について基礎的な知識を説明することができる。
授業の方法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。質疑応答、調査学習、グループ・ワークを導入する。
予習・復習等及び必要時間(時間)	毎日30分程度の予習・復習が必要。
履修条件	特にありません

授業計画

1	オリエンテーション 保育者に必要な歌唱	9	歌唱小テスト あそびうた①
2	発声法 生活の歌① 子どもの歌①	10	冬の歌① あそびうた②
3	子どもの発達と歌唱 発声練習① 生活の歌②子どもの歌②	11	冬の歌② 合唱①
4	発声練習② 生活の歌③子どもの歌③	12	春の歌② 合唱② あそびうた③
5	日本の子どもの歌の歴史①調査学習 生活の歌④	13	子どもの歌④ あそびうた④
6	日本の子どもの歌の歴史②発表 春の歌①	14	子どもの歌⑤ あそびうた⑤
7	夏の歌	15	歌唱の発表 まとめ
8	秋の歌		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	教科書：楠井淳子著『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現』ふくろう出版、神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 参考文献：小林満編『新・声楽指導教本』教育芸術社
課題（レポート・テストを含む）に対するフィードバックの方法	授業時に個々に助言を行う。課題、小テスト、発表の後に助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	歌唱の発表（50%） 課題、歌唱の小テスト（50%）
実務経験と担当科目内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
幼児美術	専門教育科目	演 習	2	1	K1S306

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
北山 里子	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	子どもの遊びを豊かにし表現活動へのよき援助者、誘導者、理解者となるよう、絵画・造形表現の基 礎的知識と技術を学修する。子どもの表現に寄り添い共感し、適切な援助ができるように、実技体験 を通し自らの感性と表現力を向上させる。
到 達 目 標	・絵画造形の基礎知識と技法を実技を通して習得する。・保育現場で子どもが安心して表現できるよ うに環境を整え、教材の準備、援助と働きかけが行える実践力を身に付ける。・他者の作品にも目を 向けさまざまな表現の面白さに気付く。
授 業 の 方 法	教科書やプリントを用いて材料や用具の取り扱い、基礎的な技能について理解する。・表現力向上に むけて実技体験する中で幼児造形の視点から発達段階を理解し、年齢に合わせた指導の在り方を考 える。・完成した作品を他者と相互鑑賞する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	学びを深めるためのポートフォリオを作成し、毎時間振り返りを行う。(2時間)、課題作品について は、創意工夫のための準備や構想といった予習時間(2時間)が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス、ポートフォリオ作成方法	9	形と構成　実技:「折り紙遊びと折り紙制作」
2	造形遊びの意義　実技:新聞遊び	10	技法遊び④　実技:墨汁「墨絵」
3	乳幼児の発達段階と特徴　実技:クレパス技法	11	技法遊び⑤　実技:絵具「お話絵」
4	遊びと造形活動　実技:年齢別絵具技法	12	デザインと構成 実技:ポップアップカード制作
5	素材と道具　実技:共同制作「誕生表作り」	13	色彩・デザイン 実技:様々な技法を使って絵本作り①形・構成
6	技法遊び①　実技:コンテ「観察画」	14	実技:絵本作り②
7	技法遊び② 実技:油性マジック・サインペン「印象画」	15	総括と振り返り 絵本作り③ 発表
8	技法遊び③　実技:和紙「ちぎり絵」		※授業内容は進捗状況によって変更する場合があります。

教科書・参考文献	『子どもの造形表現 第3版』(開成出版)『保育をひらく造形表現』(萌文書林)『クレパスの時間』(株式会社サクラクレパス出版部) 他
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	疑問点は次週の授業内で回答する。提出された(中間時・全講義終了時)ポートフォリオと全講義終 了時に記録した自己評価でフィードバックを行う。造形表現の基礎知識について筆記試験を行い、未 収得の内容について振り返りを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	提出作品(60%)、筆記試験(20%)、ポートフォリオ(20%)
実務経験と担当科目 内容との関連	幼稚園教諭として培った経験の中から具体的な実践事例を挙げ、保育者を目指す学生の保育実践力 を高める授業を展開する。

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
保育造形	専門教育科目	演習	1	1	K1S307

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
北山 里子	○	後期	選択	◎		

授業概要	『子ども達がのびのびと自己を表現し感性豊かに成長できるような表現活動の展開を導く保育者』を目指す学生自身が、実技体験を通して感性を磨き造形表現の楽しさや、自由な発想を体感する。
到達目標	・乳幼児の成長や発達を踏まえて、子どもならではの造形表現を理解し、正しく導くための支援方法を習得する。・他者との協働的な表現や相互鑑賞を通して、表現の多様性を理解し、尊重し合うことができる。
授業の方法	・造形の基礎理解のための講義と、子ども達の遊びに実践できる手作り教材制作などの実技体験を行う。・完成した作品を相互鑑賞し学生同士でフィードバックを行う。
予習・復習等及び必要時間(時間)	課題制作について、創意工夫のため準備や構想に30分程度の予習、完成に向けて継続的制作時間と30分程度のポートフォリオによる振り返り時間が必要。
履修条件	特にありません

授業計画

1	ガイダンス、ポートフォリオ作成方法	9	手作りおもちゃの意義 紙コップを使った教材制作①
2	実習園で使用する名札作り	10	手作り教材制作② 様々な素材を使った人形作り
3	環境構成と道具の研究(自然物を使った造形表現)	11	手作り教材制作③ 様々な素材を使った人形作り
4	素材に触れる　　白土粘土・テラコッタで感触遊び	12	形と構成 見立て遊び　～コラージュ～
5	子どもの遊びと文化 ペープサート作り①	13	手作り教材制作④ スケッチブックシアター①
6	視覚支援 ペープサート作り②	14	手作り教材制作⑤ スケッチブックシアター②
7	共同制作1 実技:ペーパークラフト	15	総括と振り返り(指導案の書き方)
8	共同制作2 実技:ペーパークラフト		

教科書・参考文献	『子どもの造形表現 第3版』(開成出版) 『幼児造形の基礎』(萌文書) 他
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	制作した名札や おもちゃ、教材に関しては、実際に保育現場や実習先で使用実践し、おもちゃや教材が子どもたちの活動に繋がったのか、自己評価をして振り返る。取り組みについて作成したポートフォリオとレポートでフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果、「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	個人、共同制作ともに、意欲的に作品制作に取り組んでいたのか、創意工夫がされたものであるか、総合的に判断する。(提出作品、70%、ポートフォリオ20%、自己評価10%)
実務経験と担当科目内容との関連	幼稚園教諭として培った経験の中から具体的な実践事例を挙げ、保育者を目指す学生の保育実践力を高める授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
基礎国語	専門教育科目	講 義	2	1	K1S101

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
村田 あきの	○	前 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	この講義では、学びの基礎となる基本的な日本語表現について学習する。さらに、保育現場で必要とされる、正しく、適切な日本語やソーシャルスキルについて考え、練習し、使いこなせるようになることを目指す。
到 達 目 標	1. 適切な日本語運用能力と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を習得する。 2. 日本語表現における基礎的な知識や教養を身に付ける。
授 業 の 方 法	講義により導入をした後、文章表現については配布するワークシートの課題に取り組む。ソーシャルスキルについては、ペアワーク、ロールプレイ、発表等を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	ワークシートのミスした部分や、講義資料の理解が難しかった箇所を確認し必要に応じて修正やノートの整理をする(2時間) 課題の作文や製作物の準備(2時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	話し方の基本とあいさつ	9	文章作成の留意点
2	自己紹介	10	文章の基本的な書き方
3	敬語の使い方	11	実習日誌の書き方
4	話すスキルと聴くスキル	12	メールの書き方
5	保育現場での話し方	13	連絡帳の書き方
6	子どもや保護者への言葉がけ	14	保育に関する文献を読んで自分の考えを書く
7	保育現場での電話・メモの取り方	15	ふり返り・フィードバック
8	正しい表記で書く		

教科書・参考文献	馬見塚昭久・大浦賢治『保育学生のための基礎学力演習　教養と国語力を伸ばす30Lesson』中央法規
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	各回でワークシートを回収し、実施内容に従いコメントと添削を行う。 フィードバックは個別およびクラス全体に実施する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ワークシート80%　ペアワーク・発表20% ワークシートへの取り組みを基本として、講義内容に従い日本語表現が適切に修正され、向上しているかを評価する。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
社会福祉	教養教育科目	講 義	2	1	K1S103

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	○	前 期	選 択		◎	◎

授 業 概 要	日本の社会福祉の歴史や法制度、実施体制について学習し、保育者に必要とされる情報や現状の課題などを考え、家庭を支援する保育者が、社会福祉的視点について理解していきます。
到 達 目 標	社会福祉の意義と歴史、サービスの概要と重要性について学び、社会福祉に関する制度や知識についての理解を深め、保育者として資質向上を図り、子ども家庭支援者として社会福祉の基本的視点について理解することをねらいとする。
授 業 の 方 法	テキストとスライドを用いた講義形式で授業を展開し、授業内での質疑応答や保育にかかわる福祉課題などをテーマに。グループワークを実践する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	予習として、次回講義ページの教科書を読んでおく(1時間程度)。 スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習(3時間程度)。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス・福祉とは	9	子どもと子育て家庭への支援
2	保育と社会福祉	10	児童福祉施設
3	社会福祉と保育の道すじ	11	障がいのある人の福祉
4	社会福祉の意味と考え方	12	高齢者の福祉
5	社会福祉の実施体制と財源	13	地域福祉
6	社会保障制度(年金保険)	14	子どもと家族の福祉課題(グループワーク)
7	社会保障制度(医療保険)	15	社会福祉の専門職と倫理
8	社会保障制度(生活保護)		

教科書・参考文献	教科書：十訂　保育者を目指す人の社会福祉(みらい) 参考文献：社会福祉の動向2025(中央法規)
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内試験の解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループワークの実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	第一種社会福祉事業における実務経験を基に、幅広い視点から授業を展開していく。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育の心理学	専門教養科目	講 義	2	1	K1S201

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
工藤 絵里	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	乳幼児期の発達と心理的特性についての基礎知識と理論を学ぶ。発達を捉える視点や子どもの発達過程、子どもの学びと保育について取り上げる。
到 達 目 標	子どもの発達に関わる心理学や子どもの学びの過程、各発達段階における心理的特性についての基礎的な知識を習得し、子どもへの理解を深める。
授 業 の 方 法	講義形式で行い、グループワークやアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎回の振り返り(2時間)、レポート作成(2時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス/発達を理解する意義	9	基本的生活習慣の獲得と発達
2	子どもの発達と環境	10	ことばの発達と社会性
3	発達理論～生涯発達の視点から	11	愛着の形成
4	身体発育と運動機能の発達	12	社会的相互作用
5	子どもの遊びと学び	13	子ども観と保育観
6	情緒の発達と自我	14	乳幼児期の学びを支える保育
7	自己主張と自己抑制	15	幼児期後の人生を見据えた保育
8	知覚と認知の発達		

教科書・参考文献	適宜資料を配布する。
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	リアクションペーパー回収後、個別あるいは全体へフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	筆記試験(100%)を原則とし、グループワークやリアクションペーパーの状況も含め総合的に判断して評価する。
実務経験と担当科目 内容との関連	相談員、支援員の実務経験を踏まえ、実践的な内容・事例を用いて理解を深めることとする。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
子育て支援	専門教育科目	演 習	1	1	K2S203

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	子育て世帯の現状から見える課題を通じ、保護者とのかかわりを基本とした信頼関係の構形成基に、保護者支援に関する特性と具体的な展開方法を理解する。
到 達 目 標	保育士の専門性である保護者に対する相談、助言の知識や技術を理解し、家庭環境に合わせた支援の在り方について、応用的な思考を理解する。また、子育て家庭を取り巻く状況から、保護者に対する相談、助言の具体的に展開することができる。
授 業 の 方 法	テキスト、スライド、プリントを用いて講義、演習を実践し、授業内においてロールプレイや質疑応答など、アクティブ・ラーニング形式を導入して展開することで、子育て支援について理解を深める。子育て支援の課題解決に向けたグループワークを実施する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します(1時間程度)。 授業において配布した資料を再確認する(1時間程度)
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーション・子育て支援とは	9	支援の展開(アセスメント)
2	子育て支援を取り巻く状況の変化	10	支援の展開(ジェノグラム)
3	保育士の行う子育て支援体制	11	支援の展開(エコマップ)
4	保育にかかわる保護者支援	12	支援の展開(グループで立案)
5	子どもの保育を通じた保護者支援	13	支援の展開(グループで発表)
6	保護者との信頼関係	14	特別な配慮を要する子どもへの支援
7	子育て支援の基本的姿勢	15	多様なニーズをかかえる家庭への子育て支援
8	子育て支援の基本的技術		

教科書・参考文献	教科書: 新・基本保育シリーズ 19 子育て支援 中央法規
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内におけるワークシート等を、必要に応じて個別、または全体にフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループ活動における参画状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
子ども家庭福祉	専門教育科目	講 義	2	1	K2S204

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
太田 望		後 期	必 修		◎	

授 業 概 要	子どもをとりまく家庭福祉の歴史的背景や子どもの権利、現代の諸問題等について知り、保育を担う者としての考え方を身につける。
到 達 目 標	・歴史的背景や子どもの権利、現代の諸問題等について参考資料をもとに調べることができる。 ・取り組んだ課題について、保育者の視点でなぜ子どもたちに必要なのか、自分の考えを述べることができる。
授 業 の 方 法	・参考資料をもとに、ワークシートをまとめる。 ・毎時間、保育者の視点でなぜ子どもたちに必要なことであるのかレポートに記述する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業内容の教科書の該当部分を読んでおき、予習復習とする(1時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション・家庭福祉とは何かを考える	9	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策
2	現代社会と児童家庭福祉	10	子ども虐待とDV問題の防止施策①
3	子どもの人権	11	子ども虐待とDV問題の防止施策②
4	子ども家庭福祉の成立と展開	12	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策
5	子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設①	13	障害のある子どもへの福祉施策
6	子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設②	14	心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援
7	子育て支援・次世代育成支援と保育施策①	15	子ども家庭福祉の専門職と連携
8	子育て支援・次世代育成支援と保育施策②		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	参考文献:『みらい×子どもの福祉ブックス　児童家庭福祉』(みらい)
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	ワークシートの回収後、必要に応じて個別あるいは全体へフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ワークシート・レポート(70%)、グループでの調べ学習・発表(30%)で総合的に判断して評価する。
実務経験と担当科目 内容との関連	特別支援学校における教育経験。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保 育 原 理	専門教育科目	講 義	2	1	K1S104

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
小林 恵理子	○	前 期	必 修		◎	◎

授 業 概 要	保育とは何か、保育を取り巻く制度や環境、世界や日本の保育の歴史など、保育者になるための基本的な事項について理解を深めることが目的である。具体的には、保育の意義及び目的、幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法などについて考える。
到 達 目 標	1. 保育の意義と目的を説明できる。 2. 保育所保育指針に示されている保育の基本を説明できる。 3. 保育計画にかかわる保育目標や内容、方法を考察し説明できる。
授 業 の 方 法	授業内にて質疑応答、デイスカッション等アクティブ・ラーニング形式を導入して授業を行う。 主に配布プリントやDVD等映像・資料等を用いて講義形式で行う。予習課題シートと配布プリントを比較したりしながら授業を行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎回、予習に相当する課題シートを作成し(1時間程度)、次回の授業で使用する。 復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する(1時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション:保育とは	9	保育方法
2	保育制度1:幼稚園とは	10	保育計画と評価
3	保育制度2:保育所とは	11	子育て支援と地域連携
4	新しい保育制度:子ども・子育て支援新制度	12	世界の保育の歴史
5	幼稚園教育の基本	13	日本の保育の歴史
6	保育所保育の基本	14	グループディスカッション (実習を通して学んだことの情報交換)
7	子どもの発達の理解と保育	15	保育の現状と課題
8	保育内容		

教科書・参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」(いずれもフレーベル館)
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	課題(レポート等の提出物)は月初めに、定期試験後には、試験用紙を返却する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	定期試験(50%)とレポート(50%)で総合的に評価し、60%以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	現場経験のある教員が授業を行う

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
社会的養護Ⅰ	専門教育科目	講 義	2	1	K1S106

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
長谷山 哲平	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	社会的養護を支える理念の理解、日本そして世界における社会的養護の現状と課題、望ましい社会的養護の実現に向けた法および政策の理解。
到 達 目 標	本講義では、社会的養護の求められる背景や歴史、理念を理解する。その上で、社会的養護の体系や実施現場、支援の実際を理解する。また、社会的養護で求められる保育者の専門性を理解する。
授 業 の 方 法	講義形式で行うが、グループディスカッションも行いながら授業を行う。 また適宜教科書を参照しながらすすめる。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	各回の受講後には、講義内容を復習(1時間程度)し、必要に応じて資料を読み予習をしておく1時間程度)、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	貧困対策
2	社会的養護とは	10	現代保育の諸問題
3	社会的養護の歴史	11	保育者の専門性
4	社会的養護の基本原理	12	諸外国における子育て支援
5	社会的養護の体系	13	世界の子育て
6	施設養護	14	講義内容の振り返り
7	女性の貧困	15	まとめ
8	孤独死		

教科書・参考文献	「現代保育論Ⅰ」保育方法研究会編(一藝社)
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	試験終了後、押さえるべき重要事項の確認を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	筆記試験を実施する。なお、60 点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習指導Ⅰ（保育所）	専門教養科目	演 習	※	1	K1S401

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村 敦	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	1.教科書やプリント、DVDを用いて、保育実習Ⅰの目的や具体的内容、方法、実習生としての心構えを学ぶ。 2.実習に必要な基本的な知識に関する学びを深める。
到 達 目 標	「保育実習Ⅰ」の目的が分かり、その具体的内容や方法、実習生としての心構え等を理解する。また、保育実習Ⅰに必要な基本的知識を習得する。
授 業 の 方 法	教科書（保育指針解説等）、プリント、DVD等を用いながら、保育への理解を深める学習を行う。学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるアクティブラーニング形式の演習なども行う。保育内容についての理解度を確認するために、小テストを行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	授業後に配布プリント、教科書（保育指針解説等）を基に、授業内容を振り返り、学んだ内容について、実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1時間程度）。また、小テストに向け、授業内容の復習に相当時間必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション、保育実習Ⅰの位置付け	9	保育指針、教育・保育要領の理解③ （各発達段階の特徴を中心に）
2	保育所とは	10	保育指針、教育・保育要領の理解④ （保育の計画を中心に）
3	保育士の倫理	11	保育指針、教育・保育要領の理解⑤、小テスト （指導計画を中心に）
4	保育者に求められる資質	12	保育実習課題
5	保育ニーズと保育制度、保育の種類	13	保育実習日誌の書き方
6	保育所の生活と1日の流れ	14	実習計画と指導案
7	保育指針、教育・保育要領の理解① （保育所で育てることを中心に）	15	実習直前指導と自己評価に関する説明
8	保育指針、教育・保育要領の理解② （保育の目的・保育の環境を中心に）		

教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編、参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内演習課題（70%）、授業内小テスト（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。 単位は保育実習指導Ⅰ（施設）と合わせて2単位とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習指導Ⅰ（施設）	専門教養科目	演 習	※	1	K1S401

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	本授業では，保育実習の中の「社会福祉施設」実習について，その意義や位置づけを理解するとともに，実習で必要な基本的な知識，技術，態度等を習得する。
到 達 目 標	実習施設の役割や機能，保育士の職務内容や役割について理解するとともに，既習の科目全体で学んだ理論と実習を関連づけて，実習における自己の課題を明確にすることをめざす。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行う。また，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。10回目に実習施設の施設長による講話を受講する。課題の提出，授業内で行う確認テストの受験が単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	事前学習として，自分が行く実習施設について詳しく調べ，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにする。（1時間） 事後学習として，課題への取り組みや資料の整理，復習などにより知識や技能の定着を図ること。（1時間）
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	障害児（者）関係施設の理解③　障害者支援施設
2	社会福祉施設実習の目的と内容	10	児童発達支援センター施設長による講話
3	社会福祉施設の基本的理解	11	施設実習事前学習　実習施設の概要の調べ学習など
4	社会的養護関係施設の理解①　児童養護施設	12	実習の計画と記録（実習日誌等）の書き方
5	社会的養護関係施設の理解② 乳児院・母子生活支援施設	13	実習課題の設定
6	社会的養護関係施設の理解③　児童虐待について	14	実習生としての心構えとマナー
7	障害児（者）関係施設の理解①　障害児入所施設	15	実習直前指導
8	障害児（者）関係施設の理解② 児童発達支援センター		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	提出した課題について，確認後，授業の際に返却する。実習時の参考資料として活用するようにする。また，テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，提出されたレポート等の課題（60%），確認テスト（40%）によって総合的に評価し，単位を認定する。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習Ⅰ（保育所）	専門教育科目	実 習	※	1・2	K2S404

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習指導Ⅰ及びこれまで学んだ知識･技術を基盤として保育所での活動に参加し，乳幼児に対する理解や保育所の役割，保育士の職務等について学ぶ。
到 達 目 標	これまでの大学での学びを生かして，積極的に保育所での活動に参加し，乳幼児の発達や保育内容，保育環境，保育士の職務等について応用的な知識を実践的に理解する。
授 業 の 方 法	保育所にて10日間以上と社会福祉施設にて10日間以上，合計20日間以上の必修実習となります。保育日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。
予習･復習等及び必要時間(時間)	保育実習指導Ⅰを受講し，実習に必要な知識をつけておくとともに，保育実習指導Ⅰで指定された準備を行なっておくこと。
履 修 条 件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または習得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授 業 計 画

1	保育所保育実習	9	保育所保育実習
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習
8	保育所保育実習		

教科書･参考文献	保育所保育指針解説(フレーベル館)厚生労働省編
課 題 (レポート･テストを含む) に対するフィードバックの方法	面談を行い，これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに，今後の課題に関する共通理解を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定･学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定･学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価(70%)，実習日誌(30%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。 ※単位は保育実習Ⅰ(施設)と合わせて4単位とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習Ⅰ(施設)	専門教育科目	実 習	※	1	K2S404

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	教科として学んだ知識・技術を基礎として，社会福祉施設の生活に参加することで，対象児(者)への理解を深め，施設の機能と保育士の職務の習得を目的とする。
到 達 目 標	社会福祉施設での実習を通して，施設における保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とする。
授 業 の 方 法	保育所にて10日間と社会福祉施設にて10日間，合計20日間の必修実習となる。実習日誌とレポート，ルーブリック評価表の提出は単位認定の必須条件となる。本科目は学外での実習であるため，アクティブラーニングを主としている。実習目標を設定した上での実践や振り返り，記録作成等を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	事前学習として，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにする。(2時間)事後学習として，実習日誌を書き，翌日の実習課題の把握をする。(2時間)また，実習中の健康管理に留意し，体調を万全に整えて実習に臨めるようにする。
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	福祉施設実習	9	福祉施設実習
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習
8	福祉施設実習		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌，感想レポート，ルーブリック評価表を用い，事後指導のための面談を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，実習施設からの評価(50%)，実習日誌(30%)，レポート(20%)を基に総合的に評価して，単位を認定する。 ※単位は保育実習Ⅰ(保育所)と合わせて4単位とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
子どもの食と栄養	専門教育科目	演 習	2	1	K2S207

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
村田 まり子	○	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	子どもの食生活は、生涯にわたり健康な生活の基礎となる。そのことを踏まえて健やかな心身の発達を助長するために、栄養素の基礎知識からはじめ、授乳期から学童期までの食生活のあり方を検討する。
到 達 目 標	保育者としての子どもの食生活に関わる基本的知識を理解する。また、自分自身の食生活を振りかえる機会とする。
授 業 の 方 法	教科書を用い、講義形式およびアクティブ・ラーニングで行う。毎回、レポート提出を課す。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	各回の授業において1時間程度の予習・復習が必要。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	児童福祉施設における食事と栄養の実際
2	子どもの心身の健康と食生活	10	献立作成のための基礎知識
3	子どもの食生活の現状と課題	11	調理の基本
4	栄養に関する基本的知識と摂り方	12	食育の基本と内容
5	食べ物の消化と吸収	13	子どもの発育・発達と栄養・食生活
6	幼児期の心身の発達の特徴	14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
7	幼児期の食生活	15	まとめ
8	児童福祉施設における食事と栄養		

教科書・参考文献	教科書:子どもの食と栄養(学建書院) 参考資料:保育所保育指針(厚生労働省)/幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省/栄養素キャラクター図鑑 日本図書センター
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	毎回のレポートを評価し返却する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格
実務経験と担当科目 内容との関連	各給食施設において給食管理および栄養管理の実務を栄養士、管理栄養士として担当した。また、教育機関においては、専門学校、短期大学食物栄養科、大学食物栄養学科、および大学院人間生活学研究科に所属し、給食経営管理を中心とした生活科学に関する授業を担当した。特に、修士課程(健康科学)においては、保育所給食について検討した。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
乳児保育Ⅰ	専門教育科目	講 義	2	1	K1S209

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
石山 真由美	○	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	本講義では、乳児保育の意義・目的について、テキストを参考に法律や3歳未満児の発育・発達について理解を深める。
到 達 目 標	乳児保育の現状について理解を深めることを目的とする。
授 業 の 方 法	授業内にて質疑応答などアクティブ・ラーニング形式を導入して授業を行う。 教科書・ワークシート・DVDなどの補助教材を用いる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業の中でいくつか課題を出し取り組むため、教科書について各回1時間程度の予習が必要、 また、授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が1時間程度必要となる。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	乳児のこころの発達
2	乳児保育はなぜ必要か	10	乳児のことばの発達
3	乳児保育の成り立ちを知ろう	11	乳児のからだ
4	子ども子育て支援新制度→乳児保育の歴史と現状	12	乳児における複数担任制
5	知っておきたい法律のいろいろ	13	保育所で過ごす一日の流れ
6	「保育所保育指針」とは	14	保護者との連携を考えよう
7	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント	15	発達の遅れと向き合う まとめ
8	人生の基礎としての乳児期		

教科書・参考文献	はじめて学ぶ乳児保育 （同文書院） 保育所保育指針解説書 （フレーベル館）
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	授業内の課題を基に事例を提示し全体で振り返りを行うとともに解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内テスト（60%） 提出されたレポート等の課題評価（40%）
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
乳児保育Ⅱ	専門教育科目	演 習	1	1	K2S210

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
石山 真由美	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	本講義では、乳児保育Ⅰの理論を基に実践を学習する。対象に合わせた乳児の日常生活の保育・援助を具体的にその方法を身につける。
到 達 目 標	子どもの生活援助、発達への援助を身につける。演習科目なので様々な実技を習得することを目的とする。
授 業 の 方 法	授業内では講義と演習を組み合わせて行い、グループ演習を取り入れる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業の予習と復習が各1時間程度必要となる。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	乳児保育における安全管理① 乳児期特有の病気とくすりの扱いを学ぶ
2	だっこ・おんぶのしかた	10	乳児保育における安全管理② 乳児を事件・事故から守る方法を知る
3	乳児の衣類の基礎知識	11	連絡帳の書き方
4	おむつ替えと「おむつはずれ」	12	遊びのアイディアと歌遊び(グループ演習)
5	授乳のしかたとその準備(グループ演習)	13	ふれあい体操(グループ演習)
6	離乳食の基礎知識	14	想像力→創造力　はぐくむ→育む
7	沐浴・清拭のしかた(グループ演習)	15	まとめ
8	衛星→衛生		

教科書・参考文献	はじめて学ぶ乳児保育(同文書院)
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	演習レポートを提出し、グループワークで討論する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内テスト(60%)　提出されたレポート等の課題評価(40%)
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
教育原理	専門教育科目	講 義	2	1	K1S110

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村 敦	○	後 期	必 修	◎	◎	◎

授 業 概 要	1.プリント等を用いて教育の基本的概念、教育に関する思想・歴史を学ぶ。 2.学んだ知識を基に自分の受けてきた教育等に照らして考え、教育について自分なりの意見をもつことができるような活動を行う。
到 達 目 標	1.教育の基本的概念についての理解を深め、自分の受けてきた教育と照らして考える。 2.教育の理念にはどのようなものがあり、どのような歴史があるのかについて知り、自分の受けてきた教育等と照らして考えることを通して、教育について自分なりの意見をもつことができる。
授 業 の 方 法	プリントを用いて教育の基本的概念，思想・歴史を理解する学習を行う。学習内容について理解を深めるために、アクティブラーニング形式の課題を各講義で行う。また、教育と発達、乳幼児期の教育・保育に関する理解の程度を確認するために、小テストを2回行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業で扱うテーマについて、事前に教科書・参考文献を読んだり、インターネットで調べたりしておいてください(1時間程度)。授業後に配布プリントを基に、授業内容を振り返り、学んだ知識を生かし自分の教育観として説明することができるよう復習してください(3時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション(教育とは何か？)	9	乳幼児期の教育・保育②(幼児期までに育って欲しい姿等)
2	教育の目的	10	小学校以降の教育
3	教育とこども家庭福祉の関連性	11	日本及び諸外国の教育制度，小テスト1回目
4	こども観と教育観の変遷	12	様々な教育実践
5	教育と発達①(発達とは？)	13	日本及び諸外国の教育の歴史と思想，小テスト2回目
6	教育と発達②(乳児期を中心に)	14	教育実践の基礎理論(教育内容・方法・評価等)
7	教育と発達③(幼児期を中心に)	15	生涯学習社会における教育の現状と課題
8	乳幼児期の教育・保育①(育てる資質・能力等)		

教科書・参考文献	保育所保育指針解説(フレーベル館)厚生労働省編、参考文献：教育原理(中央法規)矢藤誠慈郎・北野幸子編、実践につなぐ教育原理(みらい)安部孝編著
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内演習課題(60%)、授業内小テスト(40%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
幼児理解の理論	専門教育科目	講 義	2	1	K1S112

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	幼児の発達や，心の問題とその背景について理解し，保育・幼児教育に生かす心理学やカウンセリングの理論や技法，具体的な進め方を学ぶとともに，保護者への対応の基本等を習得することを目的とする。
到 達 目 標	・幼児の理解や対応に生かせるカウンセリングの理論や技法について説明できる。 ・演習を通して，他者の気持ちを想像する力を高めるなど，保育者・教師としてのカウンセリングの技術の向上を図る。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用い，講義形式で行う。また，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。授業内で行う試験の受験が単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	事前学習として，次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習する。(2時間) 事後学習として，講義資料とハンドブック，ワークブックを読んで復習し，学習した内容の要点をノートにまとめる。(2時間)
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	カウンセリングの言語的技法②
2	実践的な教育相談と援助者の基本的な構え①	10	カウンセリングの非言語的技法
3	実践的な教育相談と援助者の基本的な構え②	11	対人関係・集団づくりに生かす理論と技法 構成的グループエンカウンター
4	幼児期における心理的特性とその対応	12	アセスメントの方法と面接技法①
5	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論① 精神分析理論	13	アセスメントの方法と面接技法②
6	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論② 交流分析理論	14	保護者への対応
7	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論③ 論理療法他	15	講義総括
8	カウンセリングの言語的技法①		

教科書・参考文献	教科書：NPO日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーハンドブック」「ピアヘルパーワークブック」図書文化
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，授業内試験(80%)，授業後に提出するリアクションペーパー(20%)によって総合的に評価し，単位認定を行う。
実務経験と担当科目内容との関連	

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
保育内容総論	専門教育科目	演習	2	1	K2S211

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
村田 あきの	○	後期	選択	◎	◎	

授業概要	保育とはどのように構成されているのかについて各領域や指針の関連を学び、子どもの発達過程や実態に応じて保育を構成するために必要な考え方や視点を身につける。
到達目標	1. 保育の理解に必要不可欠である保育の一つ一つの内容の組み立てや相互の関連を理解する。 2. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な知識や技能を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解し習得する。 3. 保育内容の関連性を理解し、保育実践の方法を学ぶ。
授業の方法	内容に応じて示された課題について、グループまたはペアでディスカッションをする。課題の製作等に取り組む。学生同士で発表の練習をし、お互いにフィードバックをする。各回でワークシートを課す。
予習・復習等及び必要時間(時間)	事前に発表の練習や製作をする(1時間) 授業資料を読んでおく(1時間) 発表準備と製作課題(2時間)
履修条件	特にありません

授業計画

1	オリエンテーション　保育内容総論の基本	9	パネルシアター-絵人形の型取り-
2	子どもの育ちに驚き、保育内容との関係性を学ぶ	10	パネルシアター-絵人形への彩色-
3	子どもの遊びと保育内容の関係性・保育の多様性	11	パネルシアター-絵人形の切り取り-
4	子どもの生活から保育内容を考える	12	パネルシアター-演じる練習-
5	ミニテスト	13	パネルシアター-ペアや小グループ内での発表-
6	領域の関連性を考えた保育の計画と実践 パネルシアターの概要と作品紹介	14	パネルシアター-発表-
7	パネルシアター-作品の選定-	15	発表のフィードバック 子どもの育ちと学びの可視化について
8	パネルシアター-パネル板の製作-		※授業計画は進捗状況によって変更する場合があります。

教科書・参考文献	【参考文献】 森眞理・猪田裕子編著(2022)『子どもの権利との対話から学ぶ　保育内容総論』北大路書房
課題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	ワークシートは回収後、必要に応じてコメントを加える。ディスカッションや発表の際は個別もしくは全体にフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内の課題　60% 発表　40%
実務経験と担当科目内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
教育心理学	専門教育科目	演 習	1	1	K1S113

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村 敦	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	1.教科書やプリントを用いて子どもの発達や学びについての代表的な理論を学ぶ。 2.学んだ理論を実際の保育場面に当てはめて考える演習を行う。
到 達 目 標	子どもの発達や学びについての基礎的理論について理解を深めるとともに、実際の保育場面において、どのように理論を生かすことができるのかについて自分なりの意見をもつことができる。
授 業 の 方 法	教科書やプリントを用いて代表的な理論を理解する学習を行う。理論をどのように生かすことができるかについて考えを深めるために、想定されたケースの対応を考えるアクティブラーニング形式の演習課題を各講義で行う。理論の理解の程度を確認するために、小テストを2回行う。
予習・復習等及び必要時間(時間)	授業で扱うテーマについて、事前に参考文献を読んだり、インターネットで調べたりしておいてください(0.5時間程度)。授業後に配布プリント等を基に、授業内容を振り返り、学んだ理論について、実際の保育場面に当てはめて説明することができるよう復習してください(0.5時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション(心理学と実践との関連)	9	子どもの学びを把握する(知能検査)
2	子どもの発達①(発達段階を中心に)	10	子どものパーソナリティ
3	子どもの発達②(心の理論を中心に)	11	子ども同士のかかわりの実際、小テスト1回目
4	子どもの発達③(道徳性の発達を中心に)	12	学習評価
5	子どもの学び①(学習理論)	13	個に応じた支援の在り方、小テスト2回目
6	子どもの学び②(内発的動機づけ・外発的動機づけ)	14	発達障がいとその援助
7	子どもの学び③(欲求階層構造説を中心に)	15	保育における発達援助
8	記憶の仕方と学習		

教科書・参考文献	参考文献:教師になる人のための学校教育心理学(ナカニシヤ出版)越良子編、スタンダード教育心理学(サイエンス社)服部環・外山美樹編
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題(70%)、授業内小テスト(30%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
教育課程論	専門教育科目	講義	2	1	K2S115

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
土川 千枝	○	前期	選択	◎	◎	

授業概要	幼児期にふさわしい生活を営むために、幼稚園・保育園・認定こども園等における指導計画立案の必要性について学習する。
到達目標	幼児のありのままの姿を受け止め、幼児の発達の実情を見通した計画の大切さを感じ取り、幼児期の生活に見通しを持つことの重要性を学んでいくことを目的とする。
授業の方法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。また、指導計画作成の演習を4～5回取り入れると共にグループでディスカッションすることで、より実践的な学習を高めていく。
予習・復習等及び必要時間(時間)	授業で配布した資料とノートの要点をまとめる復習(1時間)
履修条件	特にありません。

授業計画

1	ガイダンス・指導計画の意義	9	演習(週日案の作成)
2	幼児教育の基本	10	保育における反省・評価
3	教育課程・全体的な計画(保育過程)と指導計画との関連	11	子育て支援と指導計画
4	演習(子どもに経験させたい年間の活動)	12	幼稚園・保育園・認定こども園と小学校の連携
5	保育の実践と保育者の役割	13	幼児理解と評価・指導計画改善のポイント(カリキュラムのPDCAサイクルの考え方)
6	長期・短期の指導計画	14	まとめの演習
7	演習(日案の作成)	15	全講義復習と確認、まとめ
8	園行事の意義と役割		

教科書・参考文献	教育課程・保育の計画と評価(萌文書林) 幼稚園教育要領の解説(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	演習やレポート等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	演習、レポートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
保育内容研究Ⅱ（言葉）	専門教育科目	演習	2	1	K1S311

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
村田 あきの	○	後期	必修	◎	◎	

授業概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容を理解する。また、子どもの言語の発達を学ぶとともに、保育者として子どもの言葉に適切に関わる方法を学ぶ。
到達目標	1. 人格形成の大切さと領域の基礎的な考え方を理解する。 2. 子どもたちの言葉を豊かに育むために必要な保育者としての知識と技能を学ぶ。 3. 保育現場での言葉を介したコミュニケーションに必要かつ有用な知識を習得する。
授業の方法	講義により当該領域に関する説明を行う。さらに、事例に即したロールプレイ、教材製作、個人や小グループによる発表によるクティブ・ラーニングにより授業を行う。
予習・復習等及び必要時間（時間）	1. 予習としてテキストの指定箇所を事前に読む・発表の準備をする（1時間） 2. 復習としてテキストの確認やノートの整理をする（1時間） 3. 製作・小レポート等の課題（2時間）
履修条件	特にありません

授業計画

1	オリエンテーション　領域「言葉」とは 絵本ノートの導入	9	乳児の言葉・1歳児の言葉の特徴 手遊びの発表-グループ1-
2	幼児教育の目的や特色 自己紹介カードの作り方	10	2歳児の言葉の特徴 手遊びの発表-グループ2-
3	保育者の言葉がけ自己紹介カードの発表	11	3歳児の言葉の特徴 手遊びの発表-グループ3-
4	子ども同士の関わりと言葉 自己紹介カードの発表	12	4歳児の言葉の特徴 言葉で自然を捉える-課題の説明-
5	親子の関わりによる言葉の発達 オノマトペの世界	13	5歳児の言葉の特徴 言葉で自然を捉える-課題を介して気づきを共有-
6	保護者支援と言葉 オノマトペでカルタ製作	14	言葉の発達に遅れがみられる子どもの支援 詩を味わう
7	言葉の機能と役割 オノマトペカルタで遊ぶ	15	CLD児を取り巻く社会と言葉
8	話し言葉・書き言葉の習得と発達 手遊びの練習		

教科書・参考文献	【教科書】浅井拓久也　編著（2023）『指導法もいっしょに学ぶ　保育内容「言葉」』教育情報出版 【参考文献】 古橋和夫 編著（2016）『保育者のための言語表現の技術-子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践-』萌文書林 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
課題（レポート・テストを含む）に対するフィードバックの方法	ワークシートの回収後、必要に応じて個別あるいは全体へフィードバックを行う。グループワークでは個別もしくはグループごとにフィードバックをする
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ワークシートへの取り組み　10% ミニテスト　20% 発表　10% レポート課題　60%
実務経験と担当科目内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育内容研究Ⅲ（環境）	専門教育科目	演 習	2	1	K1S312

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
工藤 絵里	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	保育内容「環境」の位置づけや内容、幼稚園や保育園での幼児教育実践や保育実践も入れつつ基礎的な理解を深める。また、乳幼児期の発達の観点から環境のもつ意味や子どもと環境のかかわりについても考える。
到 達 目 標	領域「環境」の基礎的なねらいと内容について理解し、その概要を説明することができる。また、実際の場面を想定して遊びを教材研究し、具体的な活動や援助の手立てを考え実践することができる。
授 業 の 方 法	講義形式及びグループワーク、製作活動を行う。また、学外授業などで地域・自然環境を利用した学習の深化を図るようにする。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	製作準備（1時間）、課題提出（3時間）
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス 「環境」の概要	9	子どもの発達と物的環境の役割
2	「環境」の意義	10	植物に関わる保育　あじさい製作
3	行事と自然との関連性や行事の意義	11	行事に関わる保育　七夕製作
4	草花図鑑作り	12	野菜を利用した教材　野菜スタンプ
5	学外授業　散歩を楽しむ（五稜郭公園）	13	身の回りの物を利用した教材①　ソルトアート
6	春を感じよう①　草花のフレーム作り	14	身の回りの物を利用した教材②　トイレットペーパーの芯をつかって花火製作
7	春を感じよう②　ドキュメンテーション作り	15	講義総括
8	思考力を育む保育　○×△の発想あそび		授業計画が変更になる場合もある

教科書・参考文献	幼稚園教育要領解説　保育所保育指針解説　幼保連携型こども園教育・保育要領解説 適宜プリントを配布する。
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	演習については、グループ別に教材研究準備、環境構成などについての助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内課題提出（70%）、筆記試験（30%）をもとに、総合的に判断する。
実務経験と担当科目内容との関連	小学校教員、相談員、支援員の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、実践的な内容・事例などを紹介し理解を深める。

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
保育内容指導Ⅲ（環境）	専門教育科目	演習	2	1	K2S317

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
工藤　絵里	○	後期	選択	◎	◎	

授業概要	子どもにとっての「身近な環境」と「環境を通して行う」ことの重要性について理解した上で、領域「環境」に関するねらい及び内容が達成されるような計画、指導計画の立案を行う。また、模擬保育の実践や省察を通して、指導法を身に付ける。
到達目標	環境を通して行うことの重要性を理解し、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」の具体的な指導場面から保育を構想する方法を身に付ける。
授業の方法	講義及びグループまたは個人で製作を行う。また、模擬保育等を行う。学外授業等では、地域・自然環境を活用するとともに、情報機器を活用し学習の深化を図るようにする。
予習・復習等及び必要時間（時間）	毎回の振り返り（1時間）、製作活動準備（1時間）、模擬授業準備（2時間）
履修条件	特にありません

授業計画

1	ガイダンス　領域「環境」の考え方	9	壁面製作②～トトロの秋～
2	領域「環境」の内容と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	10	松ぼっくりツリーとリース作り
3	かがく遊び①（空気あそび）	11	自然環境を利用した遊び・伝統的な行事と遊び
4	かがく遊び②（重さ比べあそび）	12	身近な素材や自然物を用いた指導案作成、準備
5	身の回りのものを利用したハロウィン製作	13	身近な素材や自然物を用いた模擬授業①
6	五稜郭公園で秋をさがそう	14	身近な素材や自然物を用いた模擬授業②
7	子どもと自然　落ち葉アート	15	身近な素材や自然物を用いた保育実践の省察
8	壁面製作①～トトロの秋～		状況により授業計画の順番が変更することがある

教科書・参考文献	適宜プリントを配布する。
課題（レポート・テストを含む）に対するフィードバックの方法	演習については、グループ別に教材研究準備、環境構成などについての助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内課題（70%）、筆記試験（30%）をもとに、総合的に判断する。
実務経験と担当科目内容との関連	小学校教員、相談員、支援員の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、実践的な内容・事例などを紹介し理解を深めることとする。

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
教育方法論	専門教育科目	講義	2	1	K1S116

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
乳井 英雄	○	前期	選択	◎		

授業概要	①教育方法と教育要領 ②3つの方法論 ③遊びを通じて育むとは ④プレゼンテーション
到達目標	教育・保育の方法理論とその技法を身に付ける。また、幼稚園教育要領を理解した上で、育みたい資質・能力を踏まえた指導方法を習得し、保育全体を見渡す知識・技能を身に付ける。
授業の方法	補助教材等を利用して講義を行なう。また、部分的に演習やアクティブラーニング形式を導入して行なう。
予習・復習等及び必要時間(時間)	指定文献を一読すること。(2時間) 講義の内容を振り返り、疑問点を確認すること。(2時間)
履修条件	特にありません

授業計画

1	ガイダンスおよび教育方法を学ぶことの意義	9	グループディスカッションと自己学習レポート作成
2	保育と幼児教育の考え方	10	意図的・無意図的教育とレディネス
3	教育方法における根拠と教育要領の関係性	11	保育者と子供の関係と潜在的カリキュラム
4	幼児教育の方法論Ⅰ「基礎理論と導く保育理論」	12	人間の発達とはⅠ「乳幼児の事例から」
5	幼児教育の方法論Ⅱ「見守る保育と参加包育理論」	13	人間の発達とはⅡ「未就学児の事例から」
6	カリキュラムの考え方と活動の4側面について	14	これまでのまとめと課題作成
7	導く保育における活動と保育者	15	全体の振り返りとディスカッション
8	見守る保育と参加包育における活動と保育者		

教科書・参考文献	「幼稚園教育要領」「こども園教育・保育要領」「教育課程の理論」磯部裕子
課題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目です。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、原則として再試験までは実施する。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
教育実習事前事後指導	専門教育科目	演 習	※	1	K2S407

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	○	前 期	選 択	◎		

授 業 概 要	附属認定こども園・附属大野幼稚園での基本実習のための事前指導、実習指導、事後指導を行い、心構えを身につけるとともに、子どもや指導計画について理解を図る。
到 達 目 標	実戦を通して、子どもへの理解を深め、幼稚園教育の役割を理解し、2年次の幼稚園教育実習への意欲を高める。
授 業 の 方 法	記録の書き方や指導計画の立案、教材研究(絵本の選択、読み語り等)をグループワークやロールプレイを用いたアクティブ・ラーニング形式で行う。教材として教科書を用いる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	ノートの整理や教科書の復習(30分) 教材研究やレポート作成(1時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス 教育実習の概要	16	附属認定こども園の見学
2	教育実習の目的	17	実習事後の反省
3	教育実習の心構えと準備Ⅰ(実習先の理解)	18	実習事後のまとめ
4	教育実習の心構えと準備Ⅱ(保育者の資質)	19	
5	教育実習の心構えと準備Ⅲ(配当日程等)	20	
6	教育実習の心構えと準備Ⅳ(実習テーマとねらい)	21	
7	教育実習の心構えと準備Ⅴ(実習記録)	22	
8	教育実習の心構えと準備Ⅵ(実習の学びと反省)	23	
9	指導計画についてⅠ(指導案とは)	24	
10	指導計画についてⅡ(指導案の書き方)	25	
11	指導計画についてⅢ(指導計画を立てる)	26	
12	指導計画についてⅣ(指導の準備)	27	
13	指導計画についてⅤ(指導案の改善と修正)	28	
14	教育実習の心構えと準備Ⅶ(安全・衛生・身だしなみ	29	
15	附属認定こども園の説明	30	

教科書・参考文献	安部孝 編著『自分でつくるBOOK＆NOTE-教育・保育実習でよりよい時間を過ごそう!』同文書院 『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	教材研究、指導案の立案、レポート作成については個別に助言指導を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目。
成績評価の方法 及び基準	教材研究および指導案作成(30%) 実習日誌作成(30%) レポート(40%) 2年次教育実習の単位と連携させており、教育実習が不可の場合は、この単位も認定されない。 ※2年次、教育実習事前事後指導と合わせて1単位とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
こども園・幼稚園体験活動	専門教育科目	実 習	1	1	K2S409

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択	◎		

授 業 概 要	幼稚園免許を取得するための必修科目。附属認定こども園・大野幼稚園において、保育体験を及び園行事への参加をし、教師の役割と援助の実際について学ぶ。
到 達 目 標	子ども理解、幼稚園教諭の役割を理解し、2年次の教育実習への意欲を高める。
授 業 の 方 法	附属認定こども園、附属大野幼稚園における体験学習。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日の振り返りと記録に2時間、準備に1時間必要。 体験学習の目的、教師の役割と援助についての予習の時間、絵本の語り聞かせの教材研究及び準備についての相当時間が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画			
1	園生活一日の流れの観察と記録(継続) 子どもたちの生活の援助と子ども理解(継続) 一日の振り返りと環境整備(継続) 部分保育指導計画の立案と教材研究及(継続)		
2	部分保育指導計画の見直しと教材準備		
3	部分保育の実施と評価・反省		
4	体験学習全体の評価・反省		
5	園行事(運動会等)への参加		
6	園行事(遊戯会等)への参加		

教科書・参考文献	安部孝 編著『自分でつくるBOOK＆NOTE-教育・保育実習でよりよい時間を過ごそう!』同文書院『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	教材研究、指導案の立案、レポート作成については個別に助言指導を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	実習園の評価(50%) 実習日誌(30%) レポート(20%)
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
ピアノ表現法Ⅰ	専門教育科目	演 習	1	1	K1S318

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
斎藤 佳子・谷藤 有紀・山本 和生		通 年	選 択			

授 業 概 要	ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。
到 達 目 標	子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。
授 業 の 方 法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする(1時間程度)必要がある。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス・シラバス説明	16	ト長調の和音…主和音・属和音No.35・No.36
2	ハ長調の和音…主和音・属七和音No.1～No.4	17	符点音符のリズムNo.49・No.50
3	分散和音の伴奏形(その1・その2)	18	符点音符のリズムNo.51・No.52
4	分散和音の伴奏形(その3・その4)	19	符点音符のリズムNo.53・No.54
5	4分音符と8分音符のリズムNo.21・No.22	20	課題の練習①「ハ長調の符点音符の練習」
6	4分音符と8分音符のリズムNo.23・No.24	21	課題の練習②「ヘ長調の符点音符の練習」
7	ハ長調の下属和音No.25・No.26 小テスト	22	課題の練習③「ト長調の符点音符の練習」
8	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.27・No.28	23	課題の練習、小テスト
9	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.29・No.30	24	符点音符のリズムNo.49・No.50
10	ヘ長調の下属和音No.31・No.32	25	符点音符のリズムNo.51・No.52
11	ト長調の和音…主和音・属和音No.33・No.34	26	符点音符のリズムNo.53・No.54
12	課題の練習①「ハ長調の和音と伴奏」	27	課題の練習①「6/8拍子の練習」
13	課題の練習②「ヘ長調の和音と伴奏」	28	課題の練習②「3/8拍子の練習」
14	課題の練習③「ト長調の和音と伴奏」	29	課題の練習③「様々なリズムの練習」
15	課題の練習、小テスト	30	課題の練習、小テスト

教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	個人レッスンとなるため、個々の修得度合いに合わせて課題調整等々のフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	小テスト2回各50点とし、60点以上を合格とする
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
国際保育理解	自由選択科目	演 習	1	1・2	K2F102

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科担当教		集 中	選 択			

授 業 概 要	世界がグローバル化している時代にあって、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を行う。
到 達 目 標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。
授 業 の 方 法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの1 時間ほどの事前学習が必要。
履 修 条 件	学年・学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大・大学の学生の参加も可能。

授 業 計 画

1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行
4	事前研修 韓国の衣食住文化	12	研修旅行
5	事前研修 海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行
6	研修旅行	14	研修旅行
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ
8	研修旅行		

教科書・参考文献	なし
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	事前研修への参加状況40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、 レポート30%、による総合評価。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

オフィスアワーについて（2025年度）

オフィスアワーとは

　オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。
なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。
また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

オフィスアワーの曜日・時間（曜日順）

教員氏名	曜日	時間帯
渡　谷　能　孝	月曜日	16:25～17:25
伊　藤　　聡	月曜日	16:25～17:25
渋　田　昌　士	月曜日	16:25～17:25
太　田　　望	月曜日	16:25～17:25
工　藤　絵　里	月曜日	16:25～17:25
土　川　千　枝	火曜日	16:25～17:25
藤　村　　敦	水曜日	16:25～17:25
奥　崎　敏　之	水曜日	16:25～17:25
土　谷　育　代	水曜日	16:25～17:25
阿　部　千　春	木曜日	16:25～17:25
土　橋　史　人	木曜日	16:25～17:25
今　在　景　子	木曜日	16:25～17:25
伊　藤　好　一	金曜日	16:25～17:25
村　田　あきの	金曜日	16:25～17:25

OTANI

HAKODATE

COLLEGE

2025講義概要
こども学科2年生

こども学科

＜教育目的＞
保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対して
あたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

＜教育目標＞
1. [多様な専門性を身につけた保育者の養成]
　　社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
2. [人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成]
　　他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、社会人としての人間形成に努める。
3. [心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成]
　　様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

＜学習成果＞
1. 保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
2. 子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
3. 豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
4. 保育教諭としての資質を身につけ、専門職として地域に貢献できる。

＜卒業認定・学位授与の方針＞
学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。
1. 保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
2. 子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
3. 地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

[講義概要]
授　業
（1）授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
（2）授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
（3）時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
（4）時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
（5）各講義の開講は次のとおりとする。

函館大谷短期大学　こども学科　履修系統図（令和7年度）

		学問、幅広い知識	保育者として必要な知識・技能、 子育て、子育て支援に有用な知識		保育者としての課題探求・実践	
分類	卒業認定・学位 授与の方針	教養を身に付ける科目	基礎、総論的な科目	応用的な科目	発展的な科目	学修の集大成科目
		0	1	2	3	4
教養科目	1	人間学Ⅰ				
	1		人間学Ⅱ			
	1	こころの科学				
	1	日本国憲法				
	3	障害者福祉				
	3	現代地域福祉論				
	2	情報処理演習				
	1・2	英語				
	2	英会話				
	1	健康科学論				
	2	健康とスポーツ				
	3	総合教養演習				
	1	生活と音楽				
専門科目	1・2		幼児音楽			
	1・2		保育音楽			
	1・2		音楽表現演習Ⅰ			
	1・2			音楽表現演習Ⅱ		
	2		音楽実践			
	2		幼児美術			
	2		保育造形			
	2		幼児体育			
	2		保育体育			
	2		基礎国語			
	1・2		児童文化Ⅰ			
	3		社会福祉			
	1		保育の心理学			
	1			子ども家庭支援の心理学		
	3			子育て支援		
	1			子ども家庭福祉		
	3			子ども家庭支援論		
	1		保育原理			
	1			保育原理Ⅱ		
	3		社会的養護Ⅰ			
	1			社会的養護Ⅱ		
	2		保育実習指導Ⅰ			
	1			保育実習指導Ⅱ		
	1			保育実習指導Ⅲ		
	3			保育実習Ⅰ		
	3				保育実習Ⅱ	
	3				保育実習Ⅲ	
	1			子どもの保健		
	1			子どもの食と栄養		
	1			子どもの健康と安全		
	1		乳児保育Ⅰ			
	1			乳児保育Ⅱ		
	1			特別支援教育基礎		
	1		教育カウンセリング			
	1		教育原理			
	1・3		保育者・教師論			
	1		幼児理解の理論			
	2			保育内容総論		
	1		教育心理学			
	1		教育経営論			
	2			教育課程論		
	1		保育内容研究Ⅰ（人間関係）			
	1・2		保育内容研究Ⅱ（言葉）			
	2		保育内容研究Ⅲ（環境）			
	2		保育内容研究Ⅳ（健康）			
	2		保育内容研究Ⅴ（表現）			
	2		保育内容研究Ⅳ（健康）			
	2		保育内容研究Ⅴ（表現）			
	2			保育内容指導Ⅰ（健康）		
	2			保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）		
	2			保育内容指導Ⅲ（環境）		
	1		教育方法論			
	1			教育実習事前事後指導		
	3				教育実習	
	1			こども園・幼稚園体験活動		
	1・2・3					保育・教職実践演習（幼稚園）
	2		ピアノ表現法Ⅰ			
	2			ピアノ表現法Ⅱ		
幼児教育 コース	2				こどもの造形と遊び	
	2				こどもの音楽と遊び	
	2				こどもの健康と遊び	
保育福祉 コース	3				地域福祉論	
	3				ボランティア活動論	
	3				福祉住環境コーディネーター	
保育心理 コース	1				教育カウンセリング心理学	
	1				セラピー概論	
	1				保育心理演習	
自由選択科目	2					幼児総合研究
	2・3			国際保育理解		
	3	ウィンタースポーツ				

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2024年（終了）		2025年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事（任）
									前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人間学Ⅰ	K0E101	4	1		2	講義	2	2				◎		◎	
	人間学Ⅱ	K1E102	4	1		2	講義	2		2			△		○	
	こころの科学	K0E103	1	1		2	講義	2	2				△		◎	
	日本国憲法	K0E104	4	1		2	講義	2	2				△	◎	○	
	障害者福祉論	K0E105	4	3		2	講義	2				2	△		○	◎
	現代地域学論	K0E106	4	3		2	講義	2					△			
	情報処理演習	K0E107	4	2		2	演習	2	2				△	◎	○	
	英語	K0E201	2	1・2		2	演習	2			2		△		◎	
	英会話	K0E202	2	2		2	演習	2		2			△	◎	○	
	健康科学論	K0E301	1・2 3・4	1		1	講義	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	K0E302	1・2 3・4	2		1	実習	3	3				△	◎	◎	
	総合教養演習	K0E401	4	3		1	演習		通年		通年		△			
専門教育科目	幼児音楽	K1S301	1・3	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育音楽	K1S302	1・3	1・2		1	演習	2		2			○		◎	
	音楽表現演習Ⅰ	K1S303	1・3	1・2		1	演習	2			2		◎		◎	
	音楽表現演習Ⅱ	K2S304	1・3	1・2		1	演習	2				2	○		◎	
	音楽実践	K1S305	3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児美術	K1S306	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育造形	K1S307	1・3	2		1	演習	2		2			○		◎	
	幼児体育	K1S308	1・2 3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育体育	K1S309	1・2 3・4	2		1	演習	2				2	○		◎	
	基礎国語	K1S101	2	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	児童文化Ⅰ	K1S102	1	1・2	●	2	講義	2			2		◎		◎	
	社会福祉	K1S103	4	3		2	講義	2	2				○		◎	◎
	保育の心理学	K1S201	1・2	1		2	講義	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	K2S202	1・4	1		2	講義	2			2		○		◎	
	子育て支援	K2S203	4	3		1	演習	2		2			○		◎	
	子ども家庭福祉	K2S204	1	1		2	講義	2		2			◎		◎	
	子ども家庭支援論	K2S205	1・4	3		2	講義	2			2		○		◎	
	保育原理	K1S104	1・4	1		2	講義	2	2				◎		◎	◎
	保育原理Ⅱ	K2S105	1・4	1		2	講義	2				2	○		◎	
	社会的養護Ⅰ	K1S106	1・4	3		2	講義	2		2			○		◎	
	社会的養護Ⅱ	K2S107	4	1	●	1	演習	2				2	○		◎	
	保育実習指導Ⅰ	K1S401	1・4	2		2	演習	4		4			○		◎	
	保育実習指導Ⅱ	K2S402	1・4	1		1	演習	1			1		○		◎	
	保育実習指導Ⅲ	K2S403	1・2	1		1	演習	1			1		○			
	保育実習Ⅰ	K2S404	1・2 3・4	3		4	実習	12		6	6		○		◎	
	保育実習Ⅱ	K3S405	1・2 3・4	3		2	実習	6			6		○		◎	
	保育実習Ⅲ	K3S406	2・4	3		2	実習	6			6		○			
	子どもの保健	K2S206	2・4	1		2	講義	2				2	◎		◎	
	子どもの食と栄養	K2S207	1	1		2	演習	2	2				○		◎	
	子どもの健康と安全	K2S208	2・4	1		1	演習	2				2	◎		◎	
	乳児保育Ⅰ	K1S209	1	1		2	講義	2	2				○		◎	
	乳児保育Ⅱ	K2S210	1	1		1	演習	2		2			○		◎	

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	学位授与の方針・卒業認定	教員による授業科目実務経験のある	単位	授業区分	時間	2024年（終了）		2025年（2年）		卒業要件	幼免	保育士	社会福祉主事（任）
									前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	特別支援教育「基礎」	K2S108	2・4	1	●	2	演習	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	K1S109	1・2	1		2	講義	2			2		○	◎		
	教育原理	K1S110	1・4	1		2	講義	2	2				◎	◎	◎	◎
	保育者・教師論	K1S111	1・2 3・4	1・3		2	講義	2				2	○	◎	◎	
	幼児理解の理論	K1S112	1・2・3	1		2	講義	2		2			○	◎	◎	
	保育内容総論	K2S211	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育心理学	K1S113	4	1		1	演習	2	2				◎	◎	◎	
	教育経営論	K1S114	1・4	1・3		1	講義	1			1		○	◎		
	教育課程論	K2S115	1	2		2	講義	2	2				○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ（人間関係）	K1S310	1・4	1		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ（言葉）	K1S311	1・2	1・2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ（環境）	K1S312	1・3	2		2	演習	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ（健康）	K1S313	1・2 3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ（表現）	K1S314	1・3・4	2		2	演習	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ（健康）	K2S315	1・2 3・4	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）	K2S316	1・2・3	2		2	演習	2				2	○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ（環境）	K2S317	1・3	2		2	演習	2		2			○	◎	◎	
	教育方法論	K2S116	1・4	1		2	講義	2		2			○	◎		
	教育実習事前事後指導	K2S407	1・4	1		1	演習	2	1		1		○	◎		
	教育実習	K3S408	1・2 3・4	3		3	実習	9				9	○	◎		
	こども園・幼稚園体験活動	K2S409	1・2・3	1		1	実習	3	3				○	◎		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	K4S410	1・2 3・4	1・2・3	●	2	演習	2				2	○	◎	◎	
	ピアノ表現法Ⅰ	K1S318	3	2		1	演習	2	1	1			○			
	ピアノ表現法Ⅱ	K2S319	3	2		1	演習	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。
卒業するためには、その他に△印の中から12 単位以上、○印の中から23 単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

※実習履修について
―教育実習（幼稚園本実習）―
教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

―保育実習（保育園・施設）―
実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね10 日間80 時間以上とする。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2024年（終了）		2025年（2年）		備考
									前期	後期	前期	後期	
幼児教育コース	こどもの造形と遊び	K3S501	1・2 3・4	2		1	演習	2				2	
	こどもの音楽と遊び	K3S502	1・2・3	2		1	演習	2			2		
	こどもの健康と遊び	K3S503	1・2 3・4	2		1	演習	2				2	
保育福祉コース	地域福祉論	K3S604	4	3		2	講義	2			2		社会福祉主事（任）
	ボランティア活動論	K3S602	4	3		2	講義	2				2	
	福祉住環境コーディネーターⅠ	K3S603	4	3		1	演習	2			2		
保育心理コース	教育カウンセリング心理学	K3S701	1・2	1		1	演習	2				2	
	セラピー概論	K3S702	1・2	1		2	講義	2			2		
	保育心理演習	K3S703	1・2	1		1	演習	2			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科目	科目No.	学習成果との関連	卒業認定・学位授与の方針	実務経験のある教員による授業科目	単位	授業区分	時間	2024年（1年）		2025年（2年）		備考
									前期	後期	前期	後期	
	幼児総合研究	K4F101	2・3	2		2	演習	2				集中	
	国際保育理解	K2F102	4	2・3		1	演習	3		集中		集中	海外研修
	ウインタースポーツ	K0F103	1	3		1	演習	4				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数　：７単位

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
障害者福祉論	教養教育科目	講 義	2	2	K0E105

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	○	後 期	選 択		○	◎

授 業 概 要	障がい者福祉に関する歴史的変容、障害の状況や対応などの基礎的な知識を学習し、これからの障がい者支援について考えていく。
到 達 目 標	障がい者福祉に関する幅広い教養を身に付け、障がいの状況に応じた学習を深め、支援の在り方について理解する。
授 業 の 方 法	テキストとスライドを用いた講義形式で授業を実践し、授業内にて質疑応答や現代における障がい者にかかわる福祉課題などについてグループワーク等を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	講義終了時に告知する次回の授業テーマについて、予め自己学習を行う。(1時間程度)。 スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習(3時間程度)。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス・障害者基本法	9	認知症(種類)
2	障がいのとらえ方(ICF)	10	認知症(症状と支援)
3	ノーマライゼーション	11	リハビリテーション
4	障がい者の生活状況	12	レクリエーション
5	日本における障がい者福祉施策	13	障がい者雇用
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	14	障がい者の福祉課題(グループワーク)
7	高次脳機能障害	15	差別をなくすために
8	パーキンソン病		

教科書・参考文献	参考文献:社会福祉学習双書2024 障害者福祉論
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内試験の解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果の「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内試験(100%)を評価の原則とし、グループワークの実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	第一種社会福祉事業における実務経験を基に、幅広い視点で授業を展開していく

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
英語	教養教育科目	演 習	2	2	K0E201

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
村田 あきの	○	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	多文化化が進む現代において、保育者は多様な背景を持つ乳幼児の保育を想定し、既存の英語知識を生かして、実際の現場でコミュニケーションをとる必要がある。この授業では、実際の保育の場面を想定し、適切な表現を身につける。また、英語劇等を通して英語による表現力を高める。
到 達 目 標	1. 英語に慣れ親しみ、音感を理解する。 2. 保育に関連した場面で、状況に応じた口頭でのやり取りを可能にする。 3. 英語を使った自己表現の方法を身につける。 4. 教養としての英語を身に付ける。
授 業 の 方 法	英語の歌や手遊びを聞いたり歌ったりする。テキストに沿って、語彙学習、ロールプレイ、リスニングをする。英語劇の台本、製作、発表をする。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	予習:知らない語彙のチェック、発表の準備(2時間) 復習:語彙や表現の暗記、発音練習、歌や劇を覚える(2時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	体調不良の園児との会話・病気やケガ
2	保護者からの相談・食に関する表現	10	医療品・体の部位・ミニテスト
3	手洗いや歯磨き・食材の名前・レシピ	11	英語劇－グループ分け・台本作り―
4	お昼寝時間の会話・指示の表現	12	英語劇－台本作り・小道具の製作－
5	英語圏のジェスチャー・手遊び歌	13	英語劇－練習－
6	降園時の会話・一日の活動や様子を伝える	14	英語劇－発表－
7	園内行事・仮定の表現	15	英語劇－振り返り－
8	体操の表現・Shall I…？／Will you…？		

教科書・参考文献	【教科書】 土屋麻衣子(2015)『Happy English for Childcare』金星堂
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	英語の歌・手遊び・ロールプレイの発表を各回で行い、都度口頭でフィードバックする。 英語劇では台本・舞台構成・発音・演出等について適宜コメントする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ミニテスト　40% 英語劇　40% グループワーク・ワークシート　20%
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
総合教養演習	教養教育科目	演 習	1	1・2	K0E401

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科担当教員	○	通 年	選 択			

授 業 概 要	社会人としての基礎力を身につけるためには、総合的な一般教養に磨きをかけることが求められます。建学の精神の下、保育者としてのライフスタイルを形成するための基礎知識を学びながら、実践的に活用できる力を養います。
到 達 目 標	多様な職業観を養い個々の資質の向上を目指すとともに、保育者としてあるべき基礎教養を深めることで基本的なふるまいができことを目的とします。
授 業 の 方 法	オムニバス形式で実施。卒業までの2年間で学ぶこととし、講義の実施日程等については順不同で実施することとし、その都度連絡をする。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	予習として、日頃から新聞を読み現代社会の状況に関心をもつ(1時間)。 講義配布資料等の見直しで復習する(1時間)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	基礎教養Ⅶ(危機管理研修)
2	基礎教養Ⅰ(建学の精神)	10	基礎教養Ⅶ(幼稚園・認定こども園キャラバン)
3	基礎教養Ⅱ(学科特別講座)	11	キャリア形成Ⅰ(求人票)
4	基礎教養Ⅲ(花まつり)	12	キャリア形成Ⅱ(エントリー方法)
5	基礎教養Ⅳ(危機管理研修)	13	キャリア形成Ⅲ(履歴書)
6	基礎教養Ⅴ(講演会)	14	基礎教養Ⅷ(生活とリスク)
7	基礎教養Ⅵ(報恩講)	15	基礎教養Ⅸ(危機管理研修)
8	基礎教養Ⅳ(総合実践発表)		

教科書・参考文献	授業内で適宜配布、紹介。
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内で実施する課題については随時フィードバック。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の方針「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内の提出課題を100%評価の原則とします。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
音楽表現演習Ⅰ	専門教育科目	演 習	1	2	K1S303

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土谷 育代	○	前 期	必 修		◎	

授 業 概 要	保育現場で使われる楽器の取り扱い方や奏法を学び、合奏する。手作り楽器や物語に音楽を付ける経験を通して豊かな感性と表現力を身につける。ピアノ演奏と弾き歌いを行い、基礎的な技能と表現力を高める。
到 達 目 標	・保育現場で使われる楽器の取り扱い方や奏法の基礎的な説明ができ、合奏できる。 ・物語に音楽を付け、創造性豊かに音楽表現できる。 ・手作り楽器、ピアノ演奏、弾き歌いなど様々な音楽表現ができる。
授 業 の 方 法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。質疑応答、グループ・ワークを導入する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日30分～1時間以上のピアノ練習が必要。次の授業までに課題などの予習・復習に1時間程度が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション 子どもの発達と音楽表現	9	器楽合奏④発表
2	環境音①音遊び ピアノ演奏とピアノ弾き歌い①	10	絵本と音楽①概要
3	環境音②音の表現 子どもと楽器	11	絵本と音楽②創作 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い④
4	手作り楽器①製作 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い②	12	絵本と音楽③創作
5	手作り楽器②リズム遊び	13	絵本と音楽④創作・練習 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い⑤
6	器楽合奏①子どもの楽器の種類と演奏方法 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い③	14	絵本と音楽⑤発表(ディスカッション・まとめ) ピアノ演奏と弾き歌い⑥
7	器楽合奏②実践	15	ピアノ弾き歌いの発表 まとめ
8	ピアノ弾き歌い小テスト 器楽合奏③実践		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	教科書:神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、石井玲子編著『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 参考文献:駒久美子編著『コンパス音楽表現』建帛社、佐藤千賀子編著『合奏楽譜ベストセレクション』ひかりのくに
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、ピアノ弾き歌いの小テストと発表の後にも助言を行う。課題、合奏、発表では授業時に助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ピアノ弾き歌い発表(50%)ピアノ弾き歌い小テスト(10%) 絵本と音楽発表(20%)課題(20%)
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
音楽表現演習Ⅱ	専門教育科目	演 習	1	2	K2S304

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土谷 育代	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	「音楽表現演習Ⅰ」での合奏の実践を踏まえて、楽器の音色や特徴を理解して合奏をし、保育者に必要な音楽表現力を身につける。わらべうた、リトミックなど様々な体験をし、幅広い音楽表現を身につける。ピアノ演奏と弾き歌いを行い、実践力を身につける。
到 達 目 標	・楽器の特徴をとらえ、合奏演奏を楽しく、豊かな感性で表現することができる。 ・わらべうた、リトミック、楽器演奏、弾き歌い等の様々な知識と技能を生かし、子どもの音楽表現活動を指導、援助ができる。
授 業 の 方 法	教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に行う。質疑応答、調査学習、グループ・ワークを導入する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日30分～1時間以上のピアノ練習が必要。次の授業までに合奏、課題の予習・復習に1時間程度が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション ピアノ演奏とピアノ弾き歌い①	9	ダルクローズの音楽教育・リトミック①概要・実践
2	わらべうた①調査学習・発表	10	ダルクローズの音楽教育・リトミック②実践 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い④
3	わらべうた②創作 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い②	11	ダルクローズの音楽教育・リトミック③実践 器楽合奏①概要・実践
4	わらべうた③創作発表	12	器楽合奏②実践
5	日本の幼児音楽教育の歴史と世界の音楽教育について オルフの音楽教育①概要・実践	13	器楽合奏③実践 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い⑤
6	オルフの音楽教育②実践 ピアノ演奏とピアノ弾き歌い③	14	器楽合奏④発表
7	コダーイの音楽教育①概要・実践	15	ピアノ弾き歌いの発表 まとめ
8	ピアノ弾き歌い小テスト コダーイの音楽教育②実践		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	教科書:神原雅之編著『幼児のための音楽教育』教育芸術社、石井玲子編著『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社、小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社、小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 参考文献:神原雅之・伊藤仁美著『1～5歳児がよろこぶ保育ではじめてリトミック』チャイルド本社、佐藤千賀子編著『合奏楽譜ベストセレクション』ひかりのくに
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	ピアノ演奏とピアノ弾き歌いでは授業時に助言を行い、ピアノ弾き歌いの小テストと発表の後にも助言を行う。課題、合奏、発表では授業時に助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ピアノ弾き歌い発表(50%)ピアノ弾き歌い小テスト(10%) 器楽合奏発表(10%)課題(30%)
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
幼児体育	専門教育科目	演 習	※	2	K1S308

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土橋 史人	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	運動遊びの実践を通し，運動の楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。
到 達 目 標	運動遊びの実践を通して，基礎的な知識を身につけ，具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とする。
授 業 の 方 法	主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し，運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法を通して学習する。また，必要に応じて単元ごとに資料を配布し学びを深める。さらに，グループディスカッション及び発表等を実施しながら進めていく。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	各運動遊びにおける指導案の作成などの予習・復習が2時間程度必要である。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	表現遊び(基礎理論)
2	様々な運動遊び(個人)	10	表現遊び(リズム遊び)
3	様々な運動遊び(集団)	11	表現遊び(選曲)
4	ボール遊び(投げる・捕る動作)	12	表現遊び(個人での振り付け)
5	ボール遊び(蹴る動作)	13	表現遊び(グループでの振り付け)
6	遊びの実践(運動遊び)	14	表現遊び(グループ内発表)
7	遊びの実践(ボール遊び)	15	表現遊び(全体での発表)
8	実践の振り返り		

教科書・参考文献	資料を配布
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとの遊びの要点を再確認し，遊びやねらいに応じた指導・援助方法等について理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	実技(70%)，提出されたレポート等の課題評価(30%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。 ※後期と合わせて2単位とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育体育	専門教育科目	演 習	1	2	K1S309

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土橋 史人	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	創作ダンスを通し，リズムとともに身体を動かすことの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法などを学ぶ。
到 達 目 標	本科目は，幼稚園教諭・保育士として必要な創作ダンスの基礎を学び，ダンスの特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して保育現場で活用できる実践力を身につけることを目的とする。
授 業 の 方 法	主に実技形式で行う。複数のグループを編成し，各グループでディスカッションを行いながら創作ダンスを完成させ，最終的に発表を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	創作ダンスの振りの作成や練習などの時間が各回1時間程度の予習・復習が必要である。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	創作ダンスの実践(1回目)
2	ダンスの基本的な知識	10	創作ダンスの実践(振り返り)
3	ダンスの基礎理論	11	創作ダンスの実践(2回目)
4	ダンスの実践方法	12	創作ダンスの実践(振り返り)
5	創作ダンスについて	13	創作ダンスの実践(3回目)
6	創作ダンスに触れてみる	14	創作ダンスの実践(振り返り)
7	創作ダンス(テーマ決め)	15	ダンス発表
8	創作ダンス(選曲)		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	レポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとに進捗状況に関するフィードバックを行い，創作ダンスについて理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	実技(90%)，提出されたレポート等の課題評価(10%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
児童文化Ⅰ	専門教育科目	講 義	2	2	K1S102

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土川 千枝	○	前 期	必修		◎	

授 業 概 要	現代を生きる子どもたちの現状に目を向けつつ、文化的に豊かな生活を営むことを考えると共に児童文化・児童文化家財についての知識を深め、保育現場における児童文化の展開について学ぶ。
到 達 目 標	子どもの心を豊かにはぐくむために、保育の内容における児童文化財の位置づけや基礎的な知識・技能・感性を身につける
授 業 の 方 法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。演習やグループワーク等アクティブラーニング形式を取り入れて授業を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業の振り返りに30分程度・次回の予習に1時間程度
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス　児童文化とは	9	児童文化財を保育に生かす(おはなしを語る)
2	こどばと表現力を育む児童文化	10	児童文化財を保育に生かす(絵本と童話)
3	保育の中で児童文化を考える	11	児童文化財を保育に生かす(紙芝居)
4	児童文化の歴史	12	シアタースタイルの児童文化財　演習
5	子どもの育ちと児童文化	13	児童文化財を保育に生かす(おもちゃ)
6	児童文化財を保育に生かす(わらべ歌・あそび歌)	14	児童文化財を保育に生かす(伝承遊び)
7	児童文化財を保育に生かす(ことば遊び) 演習(かるた作り) ①	15	児童文化財を保育に生かす　まとめ
8	児童文化財を保育に生かす(ことば遊び) 演習(かるた) ②		

教科書・参考文献	ことばと表現力を育む児童文化　萌文書林 幼稚園教育要領の解説(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	演習やレポート・ワークシート等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	演習、レポート・ワークシートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目 内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
子ども家庭支援の心理学	専門教育科目	講義	2	2	K2S202

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
工藤 絵里	○	前期	選択		◎	

授 業 概 要	現代社会の家族や子育てに関する問題について、心理学的な視点から事象を読み解けるようにする。社会問題となっている事例について考察し、グループディスカッションを通して理解を深める。
到 達 目 標	子育て家庭をめぐる現代社会的状況と課題について理解する。また、支援のあり方について、様々な実践などを基に、理解できるようになる。
授 業 の 方 法	資料を用いて講義形式で行う。また、グループディスカッションを取り入れた演習を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業後は資料を読んで復習をし、要点をノートにまとめる(2時間)、レポート課題(2時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス/子育て家庭支援の視点	9	特別なニーズを持つ家庭と援助③子どもへの対応
2	生涯発達と初期経験の重要性	10	子どもの精神保健と課題①子どもの心の理解
3	家族・家庭の理解	11	子どもの精神保健と課題②幼児期の精神保健
4	子育てを取り巻く社会的状況	12	子どもの精神保健と課題③児童期・青年期
5	ライフコースと仕事、子育て	13	子どもの精神保健と課題④喪失体験への対応
6	多様な家庭とその理解	14	DV/児童虐待
7	特別なニーズを持つ家庭と援助①支援の考え方	15	事例を通した考察
8	特別なニーズを持つ家庭と援助②親への対応		

教科書・参考文献	適宜プリントを配布する。
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	リアクションペーパーへ個別にコメントする。内容に応じて全体にフィードバックする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	筆記試験(70%)、リアクションペーパー(30%)をもとに、総合的に判断する。
実務経験と担当科目 内容との関連	小学校教員、相談員、支援員の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、実践的な内容・事例などを紹介し理解を深めることとする。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
子ども家庭支援論	専門教育科目	講 義	2	2	K2S205

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	○	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	子どもの育ちや家族支援に関する保育士の役割として、基本的姿勢や支援内容、実践方法について学ぶ。
到 達 目 標	子どもを取り巻く生活や生活状況の多様性を理解するとともに、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援や応用する力を養うことをねらいとする。
授 業 の 方 法	講義資料、スライドを用いて講義を実践し、授業内において質疑応答、グループワークなど、アクティブ・ラーニング形式を導入して展開することで、子育て家庭への理解を深める。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	次回講義の予習テーマについて、自己学習をする(2時間程度)。 スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習(2時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス・子ども家庭支援	9	地域の子育て家庭への支援
2	家族と家庭	10	保育所を利用している保護者に対する支援
3	子ども家庭支援の意味と目的	11	家庭の状況に応じた支援
4	保育者に求められる支援の基本姿勢	12	養育支援を必要とする家庭への支援
5	子育て家庭を支える現状	13	多様な形の家庭への支援
6	保育の専門性を活かした子ども家庭支援	14	子ども家庭支援における課題
7	子どもの育ちの喜びの共有	15	子ども家庭支援における展望
8	地域の子育て支援を取り巻く環境		

教科書・参考文献	新版　保育をめざす人の子ども家庭支援　　みらい
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内試験の解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループワークの実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育原理Ⅱ	専門教育科目	講 義	2	2	K2S105

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土川 千枝	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	『保育原理』で学んだ保育の意義及び目的を基に、幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育の基本・保育内容と方法・環境等に焦点を当て、保育実践に繋がる知識・技能を学ぶ。
到 達 目 標	・子どもが育つ環境（特に保育者の環境構成や言葉がけ等）の重要性が理解できると共に教材の準備ができる。 ・授業を通じて、保育者としての資質や技能、専門性を理解し、保育現場での実践力を身に付ける。
授 業 の 方 法	プリントを用いた講義形式及びグループワーク、模擬保育等アクティブラーニング形式を取り入れた演習を行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	授業の振り返り（30分） 教材研究（30分）程度
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス・シラバス説明	9	おたよりについて②（作成）
2	環境を通して行う教育及び保育の基本的な考え方	10	模擬保育 職員の出し物①（内容・計画決定）
3	保育室の環境構成の工夫（環境図作成）	11	模擬保育 職員の出し物②（発表準備・教材研究）
4	壁面装飾について①（立案）	12	模擬保育 職員の出し物③（発表練習）
5	壁面装飾について②（教材研究）	13	模擬保育 職員の出し物④ （前半グループ実践と振り返り）
6	おりがみの指導①（内容・計画決定）	14	模擬保育 職員の出し物⑤ （後半グループ実践と振り返り）
7	おりがみの指導②（小グループ内模擬保育）	15	全体を通じてのまとめ
8	おたよりについて①（様々なおたより）		

教科書・参考文献	参考文献：幼稚園教育要領の解説（最新版）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）、園児が心を寄せる環境の構成（内閣府 文部科学省 厚生労働省） 写真で学ぶ保育環境のくふう（学習研究社）
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	課題や演習などの内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内の課題（60%）演習・発表の内容（40%） 総合的に評価し60%以上で合格。
実務経験と担当科目 内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
社会的養護Ⅱ	専門教育科目	演 習	1	2	K2S107

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
太田 望	○	後 期	選 択		◎	

授 業 概 要	社会的養護の実際についての理解を深め、個々の子ども・保護者の実態を把握するための多面的な視点について学ぶ。得られた多面的な視点を基にして、具体的な支援を考える演習を行う。
到 達 目 標	社会的養護の実際について理解を深めるとともに、個々の子ども・保護者の実態を把握するための 多面的な視点を得ることができる。さらに、事例について、多面的な視点で適切な実態把握を行 い、それを基にして、具体的な支援計画を作成することができる。
授 業 の 方 法	様々な事例を基にして社会的養護の実際を理解する学習を行う。また各講義では、事例に登場する子ども・保護者に対しての具体的な対応について考えるアクティブラーニング形式の演習も行う。授業の最後にはアクティブラーニング形式のグループワークを行い、具体的な支援計画を作成する演習も行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業後に配布プリントや参考文献を基に、授業内容を振り返り、社会的養護の実際について理解を 深めるとともに、学んだ視点を事例に当てはめて考えることができるよう復習すること(1時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション(社会的養護の対象者)	9	社会的養護の内容2(治療的支援)
2	施設養護の実際1(乳児院を中心に)	10	社会的養護雄内容3(自立支援)
3	施設養護の実際2(児童養護施設を中心に)	11	支援計画の評価と改善
4	施設養護の実際3(障害児入所施設を中心に)	12	社会的養護等の課題
5	社会的養護における倫理及び責務	13	社会的養護にかかわる専門技術1(グループワーク)
6	家庭養護の実際	14	社会的養護にかかわる専門技術2(グループワーク)
7	アセスメントと支援計画の作成(概要の理解)	15	社会的養護にかかわる専門技術3(グループワーク)
8	社会的養護の内容1(日常生活支援)		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献:社会的養護II(中央法規)相澤仁・村井美紀・大竹智編
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義で具体的な解答例を示し、振り返りと解説を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内演習課題(50%)、グループワークを基に作成するレポート(50%)を基にして総合的に評価をする。
実務経験と担当科目 内容との関連	特別支援学校での教育経験。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習指導Ⅱ（保育所）	専門教育科目	演 習	1	2	K2S402

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村 敦	○	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	1.教科書やプリントを用いて、保育実習Ⅱの目的や具体的内容、方法を学ぶ。 2.実習に必要な多様な視点や、実習内容と他の授業内容との関連について学ぶ。
到 達 目 標	保育実習Ⅱの目的が分かり、その具体的内容や方法を理解する。また、これまでの様々な授業で学んだことを生かし、子どもの実態に則した指導案を具体的に作成することができる。
授 業 の 方 法	教科書（保育指針解説等）、プリントを用いながら、保育への理解を深める学習を行う。学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるアクティブラーニング形式の演習を行うとともに、グループワークを基に、具体的な指導案を作成するアクティブラーニング形式の演習を行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	授業後に配布プリント、教科書（保育指針解説等）を基に、授業内容を振り返り、学んだ内容について、実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1時間程度）。
履 修 条 件	保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修済。

授 業 計 画

1	オリエンテーション、保育実習Ⅱの位置付け	9	指導計画の作成①（ねらいと評価を中心に）
2	実習の目的と実際	10	指導計画の作成②（ねらいに合った支援を中心に）
3	保育所の役割と機能①（保育所の役割を中心に）	11	事例を基にしたグループワーク① （子どもの実態を踏まえて）
4	保育所の役割と機能② （日誌への記載方法を中心に）	12	事例を基にしたグループワーク② （ねらいを基にした指導案とは？）
5	実習Ⅱの総合的な学び①（家庭支援を中心に）	13	保育士の業務と職業倫理
6	実習Ⅱの総合的な学び②（地域連携を中心に）	14	自己課題の明確化と実習日誌
7	保育の全体計画に基づく具体的計画と実践	15	評価とまとめ
8	保育の観察と記録		

教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編、参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに，それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内演習課題（50%）、レポート（50%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。保育実習Ⅱと連携させており、保育実習Ⅱが不可の場合は単位が認定されない。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習指導Ⅲ	専門教育科目	演 習	1	2	K2S403

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	前 期	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ，より実践的で総合的な視点から施設の機能や役割，現状，施設保育士の役割と他職種との連携，利用児（者）について理解を深められるようにする。
到 達 目 標	施設の機能や役割，専門職としての施設保育士の職務と職業倫理について具体的に理解できることを目的とする。
授 業 の 方 法	講義資料を用いて，講義形式で行う。また，グループワークやグループディスカッションなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。提出課題は単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	事前学習として，自分が行く実習施設について詳しく調べ，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにする。（1時間）また，事後学習として，課題への取り組みや資料の整理，復習などにより知識や技能の定着を図ること。（1時間）
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	障害児（者）関係施設の役割と機能③ 障害者支援施設
2	保育実習Ⅲの目的と内容	10	チーム支援 －職員のチームワークと働き方－
3	社会的養護関係施設の役割と機能① 乳児院	11	施設で行う家族療法とペアレント・トレーニング
4	社会的養護関係施設の役割と機能② 児童養護施設	12	援助者のメンタルヘルス
5	社会的養護関係施設の役割と機能③ 母子生活支援施設	13	リービングケアと自立支援① 自立の力を養う取り組みについて
6	社会的養護施設の役割と機能④ 児童虐待について	14	リービングケアと自立支援② 課題と援助方法について考える（演習）
7	障害児（者）関係施設の役割と機能① 障害児入所施設・児童発達支援センター	15	職場内研修と不適切対応の防止
8	障害児（者）関係施設の役割と機能② 神経発達症（発達障害）の理解と対応について	16	評価とまとめ

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	提出した課題について，確認後，授業の際に返却する。実習時の参考資料として活用するようにする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，提出されたレポート等の課題（70%），授業後に提出するリアクションペーパー（30%）によって総合的に評価し，単位を認定する。
実務経験と担当科目内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習Ⅰ（保育所）	専門教育科目	実 習	※	1・2	K2S404

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習指導Ⅰ及びこれまで学んだ知識･技術を基盤として保育所での活動に参加し，乳幼児に対する理解や保育所の役割，保育士の職務等について学ぶ。
到 達 目 標	これまでの大学での学びを生かして，積極的に保育所での活動に参加し，乳幼児の発達や保育内容，保育環境，保育士の職務等について応用的な知識を実践的に理解する。
授 業 の 方 法	保育所にて10日間以上と社会福祉施設にて10日間以上，合計20日間以上の必修実習となります。保育日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。
予習･復習等 及び必要時間（時間）	保育実習指導Ⅰを受講し，実習に必要な知識をつけておくとともに，保育実習指導Ⅰで指定された準備を行なっておくこと。
履 修 条 件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または習得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授 業 計 画

1	保育所保育実習	9	保育所保育実習
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習
8	保育所保育実習		

教科書･参考文献	保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編
課 題 （レポート･テストを含む） に対するフィードバックの方法	面談を行い，これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに，今後の課題に関する共通理解を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定･学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定･学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	保育所からの評価（70%），実習日誌（30%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。※単位は保育実習Ⅰ（施設）と合わせて4単位とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習Ⅰ(施設)	専門教育科目	実 習	※	1	K2S404

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	教科として学んだ知識・技術を基礎として，社会福祉施設の生活に参加することで，対象児(者)への理解を深め，施設の機能と保育士の職務の習得を目的とする。
到 達 目 標	社会福祉施設での実習を通して，施設における保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とする。
授 業 の 方 法	保育所にて10日間と社会福祉施設にて10日間，合計20日間の必修実習となる。実習日誌とレポート，ルーブリック評価表の提出は単位認定の必須条件となる。本科目は学外での実習であるため，アクティブラーニングを主としている。実習目標を設定した上での実践や振り返り，記録作成等を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	事前学習として，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにする。(2時間)事後学習として，実習日誌を書き，翌日の実習課題の把握をする。(2時間)また，実習中の健康管理に留意し，体調を万全に整えて実習に臨めるようにする。
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	福祉施設実習	9	福祉施設実習
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習
8	福祉施設実習		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌，感想レポート，ルーブリック評価表を用い，事後指導のための面談を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，実習施設からの評価(50%)，実習日誌(30%)，レポート(20%)を基に総合的に評価して，単位を認定する。※単位は保育実習Ⅰ(保育所)と合わせて4単位とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習Ⅱ（保育所）	専門教育科目	実 習	2	2	K3S405

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習Ⅰで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に幅広く参加し，保育所の役割や保育士の職務等について，より実践的で総合的な理解を深める。
到 達 目 標	保育所での活動に参加し，乳幼児の発達やより発展的な保育内容，保育環境，保育士の職務等についてより実践的・総合的に理解することができる。また，自らの指導計画を作成したり，地域社会との連携等，幅広い視点で保育所の活動を理解したりすることができる。
授 業 の 方 法	保育所にて10日間以上と社会福祉施設にて10日間以上，合計20日間以上の必須実習となります。実習日誌の提出は単位認定の必須条件となります。
予習・復習等及び必要時間（時間）	保育実習指導Ⅱを受講し，実習に必要な知識をつけておくとともに，保育実習指導Ⅱで指定された準備を行なっておくこと。
履 修 条 件	実習前に開講されている学則必修科目，および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合，または修得の見込みが立たない場合，保育実習を履修できない場合がある。

授 業 計 画

1	保育所保育実習	9	保育所保育実習
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習
8	保育所保育実習		

教科書・参考文献	保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編
課　題（レポート・テストを含む）に対するフィードバックの方法	実習後の保育実習指導Ⅱの授業内において，実習内容についての振り返りを行い，今後の課題を見出す学習を行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価（70%），実習日誌（30%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育実習Ⅲ(施設)	専門教育科目	実 習	2	2	K3S406

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択		◎	

授 業 概 要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ，より実践的で総合的視点からの施設機能や役割，対象児(者)への理解を深める。
到 達 目 標	社会福祉施設での実習を通して，施設における保育士として必要な知識や技術を習得することを目的とする。
授 業 の 方 法	社会福祉施設にて10日間の選択必修実習となる。実習日誌とレポート，ルーブリック評価表の提出は単位認定の必須条件となる。本科目は学外での実習であるため，アクティブラーニングを主としている。実習目標を設定した上での実践や振り返り，記録作成等を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	事前学習として，必要な知識や技術を身につけ，明確な課題意識を持って実習に臨めるようにする。(2時間)事後学習として，実習日誌を書き，翌日の実習課題の把握をする。(2時間)また，実習中の健康管理に留意し，体調を万全に整えて実習に臨めるようにする。
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	福祉施設実習	9	福祉施設実習
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習
8	福祉施設実習		

教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」，参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌，感想レポート，ルーブリック評価表を用い，事後指導のための面談を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，実習施設からの評価(50%)，実習日誌(30%)，レポート(20%)を基に総合的に評価して，単位を認定する。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
子どもの保健	専門教育科目	講 義	2	2	K2S206

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
小杉 あゆみ・齊藤 眞樹	○	後 期	必 修		◎	

授 業 概 要	子どもは自ら育つ力があるが、未成熟な子どもを援助して成熟へ向かわせる支援が必要である。子供の成長・発達は一様ではないが、正常や標準を理解する。身体と精神の発達に関わる保育者としての役割を学ぶ。
到 達 目 標	子どもの誕生から幼児期までの心身の成長過程を理解する。
授 業 の 方 法	グループディスカッション、ポスター発表を組み合わせて行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	グループディスカッション・ポスター発表
2	子どもと保健、親と子どもの保健	10	子どもの食・感染症対策
3	健康および安全管理の実施体制 グループディスカッション・ポスター発表	11	子どもの体調不良への対応と救急処置
4	子どもの成長と発達	12	グループディスカッション・ポスター発表
5	子どもの生活と保健	13	子どもの病気
6	グループディスカッション・ポスター発表	14	子どもの保育
7	子どもの精神保健	15	グループディスカッション・ポスター発表
8	保育における保健的対応		

教科書・参考文献	保育・教育ネオシリーズ21 子どもの保健 同文書院
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	制作ポスターの提出
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	グループディスカッション、ポスター発表、制作ポスターの評価、合計点が60 点以上で合格
実務経験と担当科目 内容との関連	看護師としての実務経験と看護学校の教員として経験がある。広く保健について精通している教員が授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
子どもの健康と安全	専門教育科目	演 習	1	2	K2S208

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
葛西 真理子	○	後 期	必 修		◎	

授 業 概 要	子どもの健康の基本や疾病・事故について理解し、保育者に求められる役割や子どもが安全に成長していくための基礎を学ぶ。
到 達 目 標	保育士の役割として、子どもの疾病や事故などに対応することが求められる。幼児期までの生活環境や健康について学び、具体的に対応できるよう保育者としての知識や実践力を身に付ける。
授 業 の 方 法	演習と講義を組み合わせて行う。附属の幼児施設の見学や体験学習を含め、演習を中心に授業を進める。シンク・ペア・シェアやグループワークなど、アクティブ・ラーニング形式を導入し、KJ法などを用いて可視化にて共有を図る。課題に対してレポートを記入し、提出する。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	授業の予定と終了後に教科書及び補助資料の確認（予習・復習） 1時間程度必要
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	子どもの健康と保育の環境 レポート	9	保育における保健的対応の基本
2	子どもの事故と対応　課題レポート・ペアでの討議	10	3歳未満児・個別な配慮を必要とする子への対応 課題レポート
3	事故防止および安全対策　体験学習・グループ討議	11	障害のある子どもへの健康面の対応 課題レポートケーススタディ
4	災害への備えと危機管理① 体験学習・グループ討議	12	職員間の連携と組織としての対応
5	災害への備えと危機管理② グループ討議・発表	13	保育における保健活動の計画及び評価① グループ討議
6	体調不良や傷害が発生した時の対応 課題レポート	14	保育における保健活動の計画及び評価② グループ討議・発表
7	子どもに多い病気と症状の対処・救急処置および救命措置法　課題レポート	15	健康および安全管理の実施体制
8	子どもの感染症の予防と対策		

教科書・参考文献	子どもの保健 ―理論と実際―
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	演習レポートを提出し、ペア及びグループワークで討論する。 発表・質疑応答を行い、学生間で共有する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格
実務経験と担当科目 内容との関連	幼稚園・保育園の園長の実務経験をもち、現在は幼保連携型認定こども園の園長を務める。子どもの健康・安全について現場の経験を通して、知識・実務を基に保健・安全についての授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
特別支援教育「基礎」	専門教育科目	演 習	2	2	K2S108

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
藤村 敦	○	前 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	1.プリントを用いて様々な障がいの診断基準や特徴、それに対応する支援の実際について学ぶ。 2.様々な事例等を基に、子どもや保護者への具体的な支援方法について考える演習を行う。
到 達 目 標	1. 様々な障がいとそれに対応する支援の実際について理解を深める。 2. 様々な事例等を基に、理解した知識を応用して、子どもや保護者への具体的な支援について考え、具体的な支援計画を考えることができる。
授 業 の 方 法	プリントを用いて様々な障がいやその支援の実際を理解する学習を行う。各講義では、事例などを基にして障がいのある子どもへの具体的な対応について考えるアクティブラーニング形式の演習も行う。様々な障がいの具体についての理解の程度を確認するために小テストを2回行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業で扱う各障がい等について、予め参考文献やインターネットで調べ、概要を理解しておいてください(2時間程度)。授業後に配布プリントや参考文献を基に、授業内容を振り返り、学んだ各障がいの具体とその対応について理解をさらに深めるとともに、学んだ支援方法を事例に当てはめて考えることができるよう復習してください(2時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション(障がいとは)	9	個々の発達を促す支援の在り方② (自立活動を中心に)
2	知的障がい児の理解と援助	10	個別の指導計画の作成①
3	発達障がい児(自閉スペクトラム症)の理解と援助	11	個別の指導計画の作成②
4	発達障がい児(AD/HD、LD)の理解と援助	12	クラス及び園全体での指導の枠組み、小テスト1回目
5	障がいはないが、特別の教育的ニーズのある子どもの理解と援助	13	保護者・家庭への支援
6	視覚障がい・聴覚障がい児の理解と援助	14	家庭及び関連機関との連携、小テスト2回目
7	肢体不自由・病虚弱児の理解と援助	15	障がい児保育の歴史と現状・課題
8	個々の発達を促す支援の在り方①(応用行動分析)		

教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献:障害児保育(中央法規)西村重稀・水田敏朗編
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内演習課題、小テストについては、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内演習課題(60%)、授業内小テスト(40%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	特別支援学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
教育カウンセリング	専門教育科目	講 義	2	2	K1S109

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	前 期	選 択	◎		

授 業 概 要	教育領域において，児童生徒が抱える心理的な問題あるいは発達的な問題，学校場面で遭遇する問題について理解し，具体的な対応の仕方などを教科書や体験を通して学ぶ。
到 達 目 標	・教育カウンセリングに関する基礎的な知識を習得できる。 ・学校教育場面でのさまざまな問題について理解し，その対応方法の基本を身につけることができるようにする。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用い，講義を行った後で，グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習する。(2時間) 授業後は，教科書や講義資料，関連する書籍を読むなどして，復習する。ピアヘルパーや教育カウンセラー補の試験を受験する予定の学生は，教科書の内容が試験範囲となるため，授業後は十分に復習する。(2時間)
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	不登校の理解と対応
2	教育カウンセリング概論	10	いじめの理解と対応
3	発達の理論	11	問題行動の理解と対応 ―非社会的行動と反社会的行動について―
4	構成的グループエンカウンターの原理	12	学級経営の考え方について
5	構成的グループエンカウンターの実際	13	保護者への対応について
6	アサーション・トレーニングの考え方と実際①	14	教師のメンタルヘルス　―ストレス対処法―
7	アサーション・トレーニングの考え方と実際②	15	講義総括
8	キャリアガイダンス		

教科書・参考文献	教科書：NPO日本教育カウンセラー協会編「新版　教育カウンセラー標準テキスト　初級編」図書文化，参考文献：NPO日本教育カウンセラー協会編「新版　教育カウンセラー標準テキスト　中級編」図書文化
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにする。また，具体的な学習方法について提示する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，授業内試験(80%)，授業後に提出するリアクションペーパー(20%)によって総合的に評価し，単位を認定する。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育者・教師論	専門教育科目	講 義	2	2	K1S111

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土川 千枝	○	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	幼児教育における保育者及び教師の役割と倫理を認識し、事例を通して考えながら、保育の専門性について考察する。
到 達 目 標	保育者・教師としての使命感、社会的責任感を自覚し、目指す保育者・教師像について考えをまとめる。
授 業 の 方 法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。演習やグループワーク等アクティブラーニング形式を取り入れて授業を行う。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業の振り返りに30分程度・次回の予習に1時間程度
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス 「保育者になる」ということ (保育者の役割と倫理及び制度的位置づけ)	9	子どもをわかるということ グループワーク
2	保育者の一日	10	子どもと一緒に心と体を動かすという仕事
3	認定こども園の一日	11	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事
4	世界の幼児教育者から学ぶ保育者の役割① フレーベル	12	保護者や家庭と一緒に歩む仕事
5	世界の幼児教育者から学ぶ保育者の役割② モンテッソーリ	13	保護者や家庭と一緒に歩む仕事 グループワーク
6	世界の幼児教育者から学ぶ保育者の役割③ シュタイナー	14	保育者の専門性
7	世界の幼児教育者から学ぶ保育者の役割④ レッジョエミリア	15	全体と通してのまとめ
8	こどもやの思いや育ちを理解する仕事		

教科書・参考文献	保育者論 ミネルヴァ書房
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	演習やレポート・ワークシート等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	演習、レポート・ワークシートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目 内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
教育経営論	専門教育科目	講義	1	2	K1S114

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
藤村 敦	○	前期	選択	◎		

授業概要	1.プリント等を用いて学校教育に関する社会的・制度的・経営的基礎的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応について学ぶ。 2.学んだ知識の中に含まれる教育における課題について考え、自分なりの対処方法についてイメージすることができるような活動を行う。
到達目標	1.学校教育に関する社会的・制度的・経営的基礎的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応について理解を深める。 2.学校を巡る様々な課題について理解を深めるとともに、課題を解決するための手段について自分なりの意見をもつことができる。
授業の方法	プリントを用いて学校教育に関する社会的・制度的・経営的基礎的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応を理解する学習を行う。学習内容について理解を深めるために、アクティブラーニング形式の課題又はリアクションペーパーの提出を各講義で求める。
予習・復習等及び必要時間(時間)	授業で扱うテーマについて、事前に参考文献を読んだり、インターネットで調べたりしておいてください(1時間程度)。授業後に配布プリントを基に、授業内容を振り返り、学んだ知識を生かし各テーマについて自分の意見を説明することができるよう復習してください(1時間程度)。
履修条件	特にありません

授業計画

1	オリエンテーション(学校経営とは？)	9	学校と地域の連携・学校評価
2	学校経営と学級経営, 校務分掌	10	開かれた学校について考える
3	学校経営の歴史と課題	11	不登校・いじめについて考える
4	学力低下, ゆとり教育について考える	12	チーム学校とは？
5	公教育の原理・理念と関連法規	13	学校安全とは？
6	指導要領とカリキュラムマネジメント	14	ミドルリーダーについて考える
7	児童生徒の多様性と少人数教育	15	学校におけるリスクマネジメント
8	様々な学びの場の保証, 教育行政		

教科書・参考文献	参考文献:学校経営(ミネルヴァ書房)浜田博文編著、学校経営(学文社)小島弘道編、いまさら聞けない日本の教育制度(武久出版)樋口修資著
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	授業内演習課題及びリアクションペーパーについては、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題・リアクションペーパー(70%)、レポート課題(30%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育内容研究Ⅰ（人間関係）	専門教育科目	演 習	2	2	K1S310

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土川 千枝	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	領域『人間関係』のねらい及び内容について、乳幼児期の人間関係の発達の特性を踏まえ、保育における人とのかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に学ぶ。
到 達 目 標	・領域『人間関係』のねらいと内容を理解する。 ・乳幼児期の人間関係の発達を理解する。 ・保育実践における保育内容『人間関係』の指導の在り方を理解する。
授 業 の 方 法	教科書・配布資料・視聴覚教材（映像）を用いた講義と演習やグループ協議等アクティブラーニング形式を取り入れて授業を行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	次回の予習に30分程度・授業の振り返りに30分程度。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス　領域『人間関係』に求められるもの	9	人との関わりを支える保育者の役割
2	幼児教育・保育の基本と領域『人間関係』の『ねらい及び内容』	10	人との関わりを支える保育者の計画
3	乳児期から幼児教育前期の子どもの人間関係の発達	11	人との関わりを育む・深める集団遊び①　計画立案
4	幼児期前期から幼児期後期の子どもの人間関係発達	12	人との関わりを育む・深める集団遊び②　教材研究
5	遊びと人との関わり	13	人との関わりを育む・深める集団遊び③　模擬保育
6	遊びのなかから生まれる人との関わり① 道徳性の芽生え	14	現代の子どもを取り巻く人間関係
7	遊びのなかから生まれる人との関わり② 対話的な学び	15	全体を通してのまとめ
8	遊びのなかから生まれる人との関わり③ 協同的な学び		

教科書・参考文献	教科書：保育内容人間関係 子どもの人との関わりと保育実践を学ぶ （萌文書林） 幼稚園教育要領解説 参考文献：基礎から学べる保育内容（人間関係）ワークブック （あいり出版）
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	演習や課題等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	課題・小テスト（60%） 模擬保育のクループにおける活動状況（40%）を総合的に判断し、評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育内容研究Ⅳ(健康)	専門教育科目	演 習	2	2	K1S313

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土橋 史人	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「健康」の領域について理解を深め，幼児期の発育発達と運動の役割について学ぶ。また，それらを踏まえ具体的な場面を想定して指導案を作成し，保育を構想する視点を学ぶ。
到 達 目 標	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「健康」の領域の視点から基礎的な知識を身につけ，幼児を取り巻く環境の変化がこころとからだに及ぼす影響について理解する。また，実際の場面を想定して保育を構想する視点を養うことを目的とする。
授 業 の 方 法	主に講義形式で行う。また，プリントをもとに進め，講義内容に沿ったレポートを提出し理解度を確認する。さらに，授業後半では，指導案の作成・模擬保育を行う。その他，授業の内容に応じてグループワークを実施する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	配布資料を読み込み，授業内容を理解すること。(1時間程度) 指導案の作成・模擬保育の準備を行うこと。(2時間程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	遊びとしての運動
2	乳幼児期の健康課題	10	指導案の作成について
3	乳幼児の身体の発達的特徴	11	指導案作成の評価
4	乳幼児期の生活習慣の形成	12	模擬保育(指導案の実践)
5	幼児の安全教育と危機(リスクとハザード)	13	模擬保育の振り返り(自己評価・他者評価)
6	幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防	14	保育・幼児教育における評価・振り返り
7	乳幼児期の運動発達の特徴	15	小学校教育との接続
8	日常生活における運動		

教科書・参考文献	資料を配布
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内テスト(80%)(授業内テスト2回(40点×2)の受験を必須とする)，提出されたレポート等の課題評価(20%)を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育内容研究Ⅴ（表現）	専門教育科目	演 習	2	2	K1S314

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
北山 里子	○	前 期	必 修	◎	◎	

授 業 概 要	<幼稚園教育要領><保育所指針><幼保連携型認定こども園教育・保育要領>に示される当該領域「表 現」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、自ら表現者として子ども達の心に寄り添い 共感できる保育者となるよう、乳幼児の発達に即した表現視点からの具体的支援方法を身につける。
到 達 目 標	・乳幼児の表現活動に見られる発達や「表現」を支える保育者の役割など、領域「表現」の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするための知識技能を修得する。・他者との共感性や協働性を養うよう、グループで表現活動の計画実践を行い、表現することの楽しさや重要性を実感する。
授 業 の 方 法	教科書や事例を基に、保育者としての自分という観点から、領域「表現」のねらいや内容を理解し保育構想を考える。内容に応じて示された課題について、グループディスカッションをし、模擬保育の実施や共同制作に取り組む。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	毎回の振り返り（1時間）、模擬保育の準備・教材選び（1時間半）、制作もしくは発表の練習（1時間半）
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス、領域「表現」の概要、ねらいと内容	9	「音」を用いたおはなし表現② ～発表～
2	乳幼児の発達に見られる表現	10	情報機器などの活用と「表現」② ～発表～
3	遊びの発達と体験における感性の育ち	11	領域表現の小学校教科との関連
4	「音」を用いたおはなし表現①（ミュージック絵本）	12	行事への取り組みと「表現」①グループワーク
5	情報機器などの活用と「表現」①（デジタル絵本）	13	行事への取り組みと「表現」②劇遊び（造形）
6	ごっこ遊び①グループワーク「ドキュメンタリー」	14	行事への取り組みと「表現」③劇遊び（発表）
7	ごっこ遊び②共同制作（造形）「ドキュメンタリー」	15	振り返りとまとめ
8	ごっこ遊び③コミュニケーション「ドキュメンタリー」		※授業内容は進捗状況によって変更する場合があります。

教科書・参考文献	『子どもの活動が広がる・深まる保育内容「表現」』（中央法規）『保育内容「表現」』（ミルヴァ書房）他
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	・演習の際には、教材準備、環境構成などについての助言を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	個人・グループ活動内での取り組みや発表を総合的に評価する（70%）筆記試験（30%）
実務経験と担当科目内容との関連	幼稚園教諭として培った経験の中から具体的な実践事例を挙げ、保育者を目指す学生の保育実践力 を高める授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育内容指導Ⅰ（健康）	専門教育科目	演 習	2	2	K2S315

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土橋 史人	○	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	幼児期における運動遊びの重要性や指導・支援のあり方，環境設定について理解を深め ，指導案の作成，模擬授業を行う。また，模擬保育の振り返りを情報機器および視聴覚教材を効果的に活用し，保育実践の評価方法についての視点を学ぶ。
到 達 目 標	幼児期における運動遊びの重要性や指導・支援のあり方，環境設定について理解を深める。また，具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法や保育実践の評価方法について応用的な学びを深めることを目的とする。
授 業 の 方 法	主に講義形式で行う。また，プリントをもとに進め，講義内容に沿ったレポートを提出し理解度を確認する。さらに，授業を通して指導案の作成・模擬保育を行う。その他，授業の内容に応じてグループワークを実施する。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	配布資料を読み込み，授業内容を理解すること。（1時間程度） 指導案の作成・模擬保育の準備を行うこと。（2時間程度）
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	多様な動きの経験を促す援助
2	保育における「健康」とは	10	心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助
3	基本的生活習慣の形成を支える援助	11	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案Ⅱ）
4	健康管理と安全能力を育む援助	12	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究Ⅱ）
5	健康な心と体を育む保育の構想（計画立案Ⅰ）	13	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育Ⅱ）
6	健康な心と体を育む保育の構想（教材研究Ⅰ）	14	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅱ
7	健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育Ⅰ）	15	幼児期に育まれる健康な心と体と小学校との連携
8	健康な心と体を育む保育の評価と改善Ⅰ		

教科書・参考文献	資料を配布
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また，単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	模擬保育（60%），指導案（20%），提出されたレポート等の課題評価（20%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）	専門教育科目	演習	2	2	K2S316

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
阿部　千春・村田　あきの	○	後期	選択	◎	◎	

授業概要	乳幼児の豊かな言語体験や表現活動に寄与できる保育者となるために、言葉を中心とした児童文化財に関する知識を深める。さらに、児童文化財を用いた遊びの展開について自ら考え、表現力を豊かにし、技術を身につける。
到達目標	1. 保育における子どもの人間関係を育むための保育内容と方法に関する知識と技術を習得する。 2. 児童文化財を保育の現場で実践するための技術を習得する。 3. 習得した知識や技能を応用的に活用し、保育者として主体的な表現を身に付ける。
授業の方法	授業冒頭で概説後、グループまたは個人でディスカッション・製作・練習等を行う。各回で課題やふり返りを課すため、ワークシートに記入し提出すること。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	授業内で配布された資料を読み込み、表現の指導法について新たに学んだことや気づきをまとめる。（1時間） 今後の課題や質問等を整理する。（1時間） 指導案や製作物の準備（2時間）
履修条件	特にありません

授業計画

1	子どもの人間関係を育む遊び	9	パクパク人形－人形劇の台本を準備する－
2	子どもの人間関係を育む遊びの実際	10	パクパク人形－人形劇の練習をする－
3	おはなし－来歴と子どもの育ち－	11	パクパク人形－人形劇の発表－
4	おはなし－発表を準備する－	12	絵本を題材とした模擬保育－模擬保育の目的－
5	おはなし－発表－	13	絵本を題材とした模擬保育－準備と指導案－
6	おはなし－発表の振り返り－	14	絵本を題材とした模擬保育－発表－
7	パクパク人形－作り方・人形劇の基本－	15	絵本を題材とした模擬保育－振り返り－
8	パクパク人形－製作－		

教科書・参考文献	【参考文献】 福音館書店「母の友」編集部編著（2022）『こどもに聞かせる一日一話』福音館書店 幸田眞希（2016）『手作り人形劇ハンドブック』萌文書林
課題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	各回で回収したワークシートには必要に応じてフィードバックを行う。グループでの活動や発表時には個別もしくは全体にコメントや指導を行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	ワークシート　30% 発表や製作　　70%
実務経験と担当科目内容との関連	

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
教育実習事前事後指導	専門教育科目	演習	1	2	K2S407

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
村田 あきの	○	前期	選択	◎		

授業概要	教育実習に入る事前学習として、教育実習の目的、教育実習への心構え、指導計画の立て方、実習記録の書き方、保育者の仕事についての基本的な知識と技能を学ぶ。また、学生自身が目標を定め、それを実現するための教材準備の方法を学ぶ。
到達目標	1. これまで学習してきた幼稚園教育に関わる専門的な知識や技能を発展的に応用し、保育現場で実践できる。 2. 保育者として、保育・教育を理解し真摯に子どもの姿と向き合う体験を積む。 3. 自分自身の課題を見出し、保育者として成長する心構えを持つことができる。
授業の方法	双方向授業・対話型授業によるアクティブラーニング
予習・復習等及び必要時間(時間)	予習:授業で扱う内容について文献や配布資料を読み、提示されている課題に取り組む。(30分) 復習:授業での学びを振り返りながら、ノートの整理をする。(30分)
履修条件	特にありません

授業計画

1	オリエンテーション	9	指導計画案作成の理解
2	教育実習の目的と自己課題の明確化	10	指導計画の立案と実践上の注意
3	教育実習に必要な事務手続き留意事項	11	指導計画の実践と評価
4	幼稚園における保育者の仕事と環境構成	12	実習に向けて課題と目標を整理する
5	教材準備の意義と作成	13	実習に向けた課題と目標の共有
6	実習園でのオリエンテーション・反省会	14	実習中の巡回指導
7	実習日誌の意義	15	実習のまとめと実習後指導について
8	実習日誌の記述方法		

教科書・参考文献	幼稚園教育要領 教育実習ハンドブック
課題(レポート・テストを含む)に対するフィードバックの方法	ワークシートについては個別指導によるフィードバック 発表ではクラス全体へのフィードバックを行う
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	ワークシート・日誌　40% 発表　30% レポート　30% ※1年次、教育実習事前事後指導と合わせて1単位とする。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
教育実習	専門教育科目	実 習	3	2	K3S408

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
こども学科実習担当教員	○	集 中	選 択	◎		

授 業 概 要	幼稚園及び認定こども園において、学内で学習した専門分野での理論や技術に基づき、教育実践を進め、幼児理解、指導計画の立案、及び環境構成・援助の実際についての学びを深める。 又、職務の実際に触れ教師(保育者)としての使命感や社会的責任意識を高めるとともに、まとめの学習に意欲をもち、進路選択及び決定に生かしていく。
到 達 目 標	子どもたちとのふれあいを通して教師(保育者)としての喜びと誇りを体感し、理論の深化及び実践力の向上のための学習を継続して意欲的に行う。
授 業 の 方 法	幼稚園・幼保連携型認定こども園にて所定の時間実習を行う。 実習日誌等の提出は単位認定の必須条件。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日の振り返りと記録2時間程度と準備に1時間程度必要
履 修 条 件	教育実習(本実習)は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状 取得科目に関して未履得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習(本実習)を 履修することはできない。学科科目の単位修得状況が不良の場合、本実習の履修が不許可になる場合がある。

授 業 計 画

まず、1年次に本学付属幼稚園にて基本実習(こども園・幼稚園体験活動)を行います(1単位)
次に2年次に市内または地方の幼稚園・幼保連携型認定こども園にて本実習を行います(3単位)
なお、基本実習を終了していない学生は、本実習を履修することはできません。

教科書・参考文献	なし
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	園からの評価表と実習日誌, レポートを用い, 事後指導のための面談を行います。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は, 実習園からの評価, 実習に対する姿勢, 実習日誌, レポート等により総合的に評価して, 単位を認定します。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育・教職実践演習（幼稚園）	専門教育科目	演 習	2	2	K4S410

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
辻川 千枝	○	後 期	選 択	◎	◎	

授 業 概 要	これまでの学びや教育実習を振り返り成果や反省を明らかにし、様々な保育の問題に対してグループワーク等を通して、自らの課題を明らかにし、方向づけを行う。また、その成果及び反省を生かし、協働で研究保育を行う。
到 達 目 標	これまでの学びや教育実習を振り返り成果や反省を明らかにし、様々な保育の問題に対してグループワーク等を通して、自らの課題を明らかにし、方向づけを行う。また、その成果及び反省を生かし、協働で研究保育を行う。
授 業 の 方 法	プリントを用いる。演習やグループ協議等アクティブラーニング形式を取り入れて授業を行う。 グループ毎に、研究保育の指導計画立案、教材準備、環境構成をし園児を招き保育実践を行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	授業の振り返りに30分程度、次回の予習に1時間程度。 保育内容研究実施に当たっては活動内容・教材研究に計画的な運営が必要。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス　現代的教育課題	16	研究保育の準備　教材準備（作成）（環境準備）
2	幼稚園教育実習を振り返る①　グループ発表・協議	17	研究保育の準備　教材準備（作成）（環境準備）
3	研究保育の準備 保育内容の検討と指導計画立案	18	研究保育の準備　教材準備（作成）（環境準備）
4	幼稚園教育実習の振り返る②　グループ発表・協議	19	研究保育の準備　教材準備（作成）（環境準備）
5	研究保育の準備　指導計画立案（全体部分）	20	研究保育の準備　教材準備（作成）（環境準備）
6	安全な園生活をつくる	21	研究保育の教材準備（作成）（環境準備）（保育会場設営）
7	研究保育の準備　指導計画立案（グループ分）	22	研究保育の教材準備（作成）（環境準備）（保育会場設営）
8	小学校教育と連携	23	研究保育の教材準備（作成）（環境準備）（保育会場設営）
9	研究保育の準備指導計画案作成	24	研究保育の教材準備（作成）（環境準備）（保育会場設営）
10	研究保育の準備指導計画案作成	25	研究保育の教材準備　環境構成　保育会場設営
11	研究保育の準備　教材準備（教材研究）	26	研究保育の教材準備　環境構成　保育会場設営
12	研究保育の準備　教材準備（教材研究）	27	研究保育の教材準備　環境構成　保育会場　役割等
13	研究保育の準備　教材準備（教材研究）（作成）	28	研究保育の教材準備　環境構成　保育会場　役割等
14	研究保育の準備　教材準備（教材研究）（作成）	29	研究保育の準備　保育会場　役割等最終確認
15	研究保育の準備　教材準備（作成）（環境準備）	30	研究保育実施

教科書・参考文献	幼稚園教育要領の解説（最新版）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	演習やレポート・ワークシート等の内容についてフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	演習、レポート・ワークシートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。
実務経験と担当科目 内容との関連	前職幼稚園園長が、実際の保育現場での資料や実践経験を交えて授業を行う。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
ピアノ表現法Ⅱ	専門教育科目	演 習	1	2	K2S319

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
斎藤 佳子・谷藤 有紀・山本 和生		通 年	選 択			

授 業 概 要	ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。
到 達 目 標	子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。
授 業 の 方 法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする(1時間程度)必要がある。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス・シラバス説明	16	6度・3度の重音No.77・No.78
2	ハ長調の音階No.55・No.56	17	3連符No.79・No.80
3	高い音の練習(その1)No.57・低い音の練習No.58	18	ヘ長調よりハ長調への転調No.81
4	ヘ長調のの音階No.59・No.60	19	3度の重音と8度の跳躍No.81
5	8va の練習・ト長調の音階No.62・No.63	20	弱起の曲No.83・No.84
6	高い音の練習(その2)No.64・No.65	21	二長調の主要三和音No.85・二短調主要三和音
7	高い音の練習(その2)No.66・No.67	22	装飾音No.87・No.88
8	臨時記号No.68・半音階No.69	23	装飾音No.89・No.90
9	16分音符のリズムNo.70・No.71・No.72	24	複付点音符No.91・No.92
10	イ短調の主要三和音No.73・No.74	25	複付点音符No.93・No.94
11	イ短調の主要三和音No.75・No.76	26	補充教材 March
12	課題の練習①「ハ長調の和音と伴奏」	27	課題の練習①「イ短調の和音と伴奏」
13	課題の練習②「ヘ長調の和音と伴奏」	28	課題の練習②「転調の練習」
14	課題の練習③「ト長調の和音と伴奏」	29	課題の練習③「二長調・二短調の和音と伴奏」
15	課題の練習・小テスト	30	課題の練習、小テスト

教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	個人レッスンとなるため、個々の修得度合いに合わせて課題調整等々のフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	小テスト2回各50点とし、60点以上を合格とする
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
こどもの造形と遊び	コース選択科目	演 習	1	2	K3S501

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
太田 望	○	後 期	選 択			

授 業 概 要	遊びを通しての保育・教育の視点から、造形遊びの教育的な意義について教材研究の演習に取り組み、こども理解に根ざした造形活動についての理解を専門的に深める。
到 達 目 標	・教材研究をこどもの発達や個性的な表現の違いの視点で理解することができる。 ・教材研究を通して学修したことを元に模擬保育を計画、実践することができる。
授 業 の 方 法	・前半は、多様な材料や用具を中心とした教材研究を通して、こどもにとっての教材としての意味や価値について考える(問題解決学習)。 ・後半はグループワークによる教材研究と模擬保育に取り組む(ディスカッション)。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	授業についての予習復習の学修が1時間程度必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーションとガイダンス・教材研究①(教材研究とは何か)	9	模擬保育の計画Ⅱ(活動内容の計画と決定)
2	教材研究②(こどもの発達での表現の違い)	10	模擬保育の計画Ⅱ(教材研究1)
3	教材研究③(こどもの個性的な表現の違い)	11	模擬保育の計画Ⅱ(教材研究2)
4	模擬保育の計画Ⅰ(活動内容の計画と決定)	12	模擬保育の計画Ⅱ(教材研究3)
5	模擬保育の計画Ⅰ(教材研究1)	13	模擬保育の計画Ⅱ(対象年齢と環境構成、支援)
6	模擬保育の計画Ⅰ(教材研究2)	14	模擬保育の実践と振り返りⅡ①
7	模擬保育の計画Ⅰ(対象年齢と環境構成、支援)	15	模擬保育の実践と振り返りⅡ②、まとめ
8	模擬保育の実践と振り返りⅠ		授業計画は変更になる場合もある

教科書・参考文献	参考文献:『美育文化ポケット』(公益社団法人　美育文化協会)
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	ワークシートの回収後、必要に応じて個別あるいは全体へフィードバックを行う。グループワークでは個別もしくはグループごとにフィードバックをする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	発表(20%)、グループワークでの作成物(20%)、提出されたレポート(60%)等を総合的に評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	特別支援学校にて美術科を担当していた。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
こどもの音楽と遊び	コース選択科目	演 習	1	2	K3S502

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
江端 深雪	○	前 期	選 択			

授 業 概 要	基礎的な音楽力を基に、多岐にわたる音楽体験を通して保育の内容・方法を深化させる。 子どもの感性を育み、創造力や表現力を豊かに育てることができる保育の実践を目指し、音楽や遊びを身近に感じられる学習の場を設定する。
到 達 目 標	保育者自身が「音楽の楽しさ」を体感することで表現の世界を拡げ、子どもと共に音楽を楽しみ合える実践的な音楽能力を養う。
授 業 の 方 法	音楽やリズムに合わせて楽しむ遊び、音に触れて楽しむ遊びに加え、様々な楽器や手法を使ってバリエーション豊かな音楽活動を展開する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	ピアノレパートリーの充実やアンサンブル担当パートの個人練習のため、1 時間程度の予習・復習が必要。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	遊びのためのレパートリー曲
2	ML アンサンブル	10	ボディパーカッション
3	音楽表現活動 (1) リズム遊び	11	ボイスパーカッション
4	音楽表現活動(2) ふれあい遊び	12	器楽アンサンブル (1) 基礎的な楽器奏法
5	ミュージックベル	13	器楽アンサンブル (2) こども曲グループ合奏
6	発表と振り返り	14	器楽アンサンブル (3) 合奏まとめ
7	トーンチャイム	15	振り返りと小テスト
8	発表と振り返り		

教科書・参考文献	必要資料を配布。
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	楽器演奏については、各個人へ習熟度に応じたアドバイスを行い、今後の学習に反映させる。アンサンブル等についても、個々に助言をしながら音楽全体の調和や練習過程、演奏評価を含めフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	課題・小テスト(60%) グループにおける活動状況および楽器演奏(30%) アンサンブル完成度(10%) 以上を総合的に判断し、評価する。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
こどもの健康と遊び	コース選択科目	演 習	1	2	K3S503

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
土橋 史人	○	後 期	選 択			

授 業 概 要	健康教育の重要性や必要性の理解を深め，乳幼児が自発的に活動することのできる環境構成を構成する力を身につけるとともに，運動遊びの安全な援助方法や指導方法を学ぶ。
到 達 目 標	運動遊びの計画・実践・評価を行い，実践の評価視点を身につけるとともに，子どもたちが夢中になって遊ぶ環境の設定および発展的な知識等について実践を通して学ぶことを目的とする。
授 業 の 方 法	運動遊びの計画を立て模擬保育を行う。また，他者の模擬保育を園児役として参加し，模擬保育の評価を行う。さらに，授業内にて質疑応答などアクティブ・ワーニング形式を導入した授業を実施する。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	模擬保育の指導案作成の提出，模擬保育の準備等を行うこと。（2時間程度） 実践の反省や自己評価等を踏まえたレポートを提出する。（1時間程度）
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	オリエンテーション	9	模擬保育（ジャンプ動作の運動遊びの振り返りと応用）
2	指導案作成について（個人）	10	模擬保育（鬼ごっこ）
3	指導案作成について（グループ）	11	模擬保育（鬼ごっこの振り返りと応用）
4	模擬保育（ボールを使った運動遊び）	12	模擬保育（様々な運動遊び）
5	模擬保育（ボールを使った運動遊びの振り返りと応用）	13	模擬保育（様々な運動遊びの振り返りと応用）
6	模擬保育（投げる動作の運動遊び）	14	模擬保育（まとめ）
7	模擬保育（投げる動作の運動遊びの振り返りと応用）	15	模擬保育の内容について振り返り
8	模擬保育（ジャンプ動作の運動遊び）		

教科書・参考文献	資料を配布
課　題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	模擬保育について，個別にフィードバックを行い，実践の振り返りを行う。
学習成果との関連	当該科目の学習成果「1」「2」「3」「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	模擬保育（60%），指導案（30%），毎時提出されたレポート等の課題評価（10%）を基にして，総合的に評価を行い，60点以上で合格とする。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科目名	分類	授業区分	単位	年次	ナンバリング
地域福祉論	コース選択科目	講義	2	2	K3S604

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資格		
				幼	保	社
工藤　絵里	○	前期	選択			◎

授業概要	地域福祉についての理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。
到達目標	福祉的なニーズを抱える人たちに対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解する。
授業の方法	講義形式で行い、グループワークなどの演習を行う。学外授業として、福祉施設を見学し、福祉の現状を知り課題について考察する。
予習・復習等及び必要時間(時間)	学外授業等のレポート提出(1時間)、ワークプリント(1時間)、予習・復習(2時間)
履修条件	特にありません

授業計画

1	ガイダンス	9	学外授業のまとめ
2	地域福祉とは何か	10	障害児と地域社会
3	認知症と地域社会	11	障害者と地域社会
4	学外授業①　母子生活支援施設	12	差別と偏見を見つめる
5	学外授業②　母子生活支援施設	13	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン
6	子ども・家庭と地域社会	14	地域福祉の推進方法
7	学外授業③　児童発達支援センター	15	地域福祉の今後と課題
8	学外授業④　児童発達支援センター		学外授業の日程が変更になる場合がある

教科書・参考文献	適宜資料を配布する。
課題（レポート・テストを含む）に対するフィードバックの方法	レポート課題のフィードバックを行う。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	筆記試験(70%)、レポート課題(30%)によって総合的に評価する。
実務経験と担当科目内容との関連	小学校教員、相談員、支援員の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、実践的な内容・事例などを紹介し理解を深めることとする。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
ボランティア活動論	コース選択科目	講 義	2	2	K3S602

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	○	後 期	選 択			

授 業 概 要	ボランティアの歴史的背景や実施状況、現代におけるボランティアの課題と今後について学習し、多角的な視点から幅広くボランティアを捉え、各々の新たな考え方に気づく。
到 達 目 標	地域活動に貢献できる奉仕の心を育み、地域に貢献できる実践力を磨くことをねらいとします。
授 業 の 方 法	スライド、映像、プリントを用いた形式で授業を展開し、授業内での質疑応答や現代社会のボランティア課題についてグループわを行う。また、ボランティアで役立てられる演習を実施する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します(1時間程度)。 授業において配布した資料を再確認する(3時間程度)。
履 修 条 件	特にありません。

授 業 計 画

1	ガイダンス・ボランティアとは	9	ボランティアに役立てる演習(聴覚障がい)
2	ボランティアの意味・始まり	10	ボランティアに役立てる演習(視覚障がい)
3	社会とボランティア(環境)	11	ボランティアに役立てる演習(視覚障がいサポート)
4	社会とボランティア(高齢者)	12	ボランティアに役立てる演習(肢体不自由)
5	ボランティアの活動形態	13	ボランティアに役立てる演習(肢体不自由サポート)
6	ボランティアにおける課題(グループワーク)	14	これからのボランティア
7	ボランティアとNPO	15	授業総括
8	有償ボランティア		

教科書・参考文献	授業内で紹介
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業内課題の内容についてフィードバックし、各々の理解度を再確認する。
学習成果との関連	当該科目の学習成果の「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	提出課題30%・レポート70%による総合評価を原則とし、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
福祉住環境コーディネーターⅠ	コース選択科目	演 習	1	2	K3S603

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
渡谷 能孝	○	前 期	選 択			

授 業 概 要	少子高齢社会における住環境整備の重要性、必要性を理解し、支援者としての専門的な知識を身に付ける。また、各専門職やご家族の調整をし、安心・安全・快適な住まい福祉社会の観点から住環境に対する理解を深める。
到 達 目 標	多角的な支援のできる保育者として、高齢者、障がい者、子どもが安心して生活することのできる住環境について学習し、保育福祉を発展的に理解する。 福祉住環境コーディネーター3級取得を目指す。
授 業 の 方 法	テキスト、スライド、映像を用いた形式で授業を行い、授業内での質疑応答、安心できる住環境についてグループディスカッションや、住環境から発見できる課題について考え、その課題解決に向けたグループワークを実施する。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	教科書を読んで事前学習を行うこと(1時間程度)。 授業内で実施した練習問題から、出題の要点と傾向の確認をすること(3時間程度)。
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス・福祉住環境コーディネーターとは	9	福祉用具
2	現在の高齢社会と福祉	10	住まい整備のための基本技術
3	福祉住環境の必要性	11	福祉住環境整備(屋内外の移動)
4	高齢者を支える介護保険制度	12	福祉住環境整備(排泄・整容)
5	障害者を広く支える障害者総合支援法	13	福祉住環境整備(入浴・清掃)
6	高齢者の運動とヘルスプロモーション	14	福祉住環境整備(調理・就寝)
7	高齢者の運動とヘルスプロモーション	15	安心できるまちづくり(グループディスカッション)
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン		

教科書・参考文献	教科書:改訂6版　福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト
課　題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	授業時間に練習問題にトライし、解答と解説を実施することで各々の理解度を高める。
学習成果との関連	当該学科の学習成果の方針「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内筆記試験(100%)を原則とし、グループワークの実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。
実務経験と担当科目 内容との関連	在宅サービスにおける実務経験から、より具体的な授業展開を図る。

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
教育カウンセリング心理学	コース選択科目	演 習	1	2	K3S701

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	後 期	選 択			

授 業 概 要	保育・教育場面におけるコミュニケーションのあり方や援助の方法，技術，個と集団を捉える意義や方法等について教科書や体験を通して学ぶ。
到 達 目 標	教育カウンセリング心理学に関する基本的な知識と技法を習得することを目的とする。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行い，グループワークやロールプレイ，ケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習も行う。授業内で行う試験を受験することとレポートを提出することが単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	事前学習として，次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習する。(1時間) 事後学習として，講義資料や関連する書籍を読むなどして復習する。また，資格試験に向けて学習する。(1時間)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	ストレスマネジメント教育 ―心・身体のセルフコントロール方法を学ぶ―
2	個別面接の技法モデル ―心理支援に生かすヘルピング・スキル―	10	認知行動療法の基本的な考え方(脱中心化，うつ病の認知モデル，認知再構成法，マインドフルネスなど)
3	ヘルピング・スキルを用いた演習	11	認知行動療法の実際(対人援助場面でのネガティブな認知の修正など)
4	ソーシャルスキル教育の実践演習① 指導案作成	12	アドラー心理学の基本的な考え方(目的論，全体論，認知論，対人関係論，自己決定性，ライフスタイルなど)と実際
5	ソーシャルスキル教育の実践演習② 指導案に沿った教材・資料等の作成	13	事例研究 事例報告の書き方の説明と演習 (事例報告シートの作成)
6	ソーシャルスキル教育の実践演習③ 指導案に沿った教材・資料等の作成	14	学級集団のアセスメントとコンサルテーション (保育園の事例)
7	ソーシャルスキル教育の実践演習④ 発表・相互評価	15	講義総括
8	ソーシャルスキル教育の実践演習⑤ 発表・相互評価		

教科書・参考文献	教科書：NPO日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」図書文化
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにする。また，具体的な学習方法について提示する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，授業内試験(70%)，レポート(20%)，授業後に提出するリアクションペーパー(10%)によって総合的に評価し，単位を認定する。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
セラピー概論	コース選択科目	講 義	2	2	K3S702

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	前 期	選 択			

授 業 概 要	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論と実際を学び，それぞれの理論・技法を実際の保育・幼児教育の現場でどのように役立てられるかについて検討することを目的とする。
到 達 目 標	・主要なカウンセリングの理論・技法に関する基礎的な知識を習得できる。 ・心理的な問題について，各カウンセリング理論を用いて捉えることができる。
授 業 の 方 法	教科書と講義資料を用い，講義を行った後で，グループワークやケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習する。(2時間) 教科書の内容が教育カウンセラー補の試験範囲となるため，授業後は十分に復習する。(2時間)
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	解決志向ブリーフ・セラピーの基本的な考え方(リソース，例外探し，スケーリング・クエスチョン，問題の外在化など)と実際
2	フロイトの精神分析理論の基本的な考え方(無意識の意識下，性格構造論，コンプレックス，転移・対抗感情転移など)	10	家族療法の基本的な考え方(システム論，円環的因果律，パラドックス介入，ダブルバインドなど)と実際
3	フロイトの精神分析理論の実際(事例を通して行動のパターン・意味・原因を考える)	11	表現療法① 絵画療法の概要の説明とスクイッグル・ゲーム・風景構成法の体験
4	ロジャーズの自己理論の基本的な考え方(クライエント中心療法の3つの態度)と実際	12	表現療法② コラージュ療法の概要の説明とマガジン・ピクチャー・コラージュ法の体験
5	パールズのゲシュタルト療法の基本的な考え方(here and now，ゲシュタルトの祈り，エンプティ・チェアなど)と実際	13	表現療法③ 箱庭療法の概要の説明と体験
6	アルバート・エリスの論理療法の基本的な考え方(ABCDE理論，イラショナル・ビリーフの論駁など)と実際	14	心身をリラックスした状態に導くリラクセーション法である「自律訓練法」の基本的な考え方と実際
7	エリック・バーンの交流分析理論の基本的な考え方(ゲーム分析，禁止令，ドライバー，ディスカウントなど)と実際	15	講義総括
8	行動療法の基本的な考え方(系統的脱感作法，強化，トークン・エコノミー法，モデリング法，シェイピング法)と実際		

教科書・参考文献	教科書：NPO日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」図書文化 参考文献:長尾博著「心理・精神療法ワークブック」誠信書房
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにする。また，具体的な学習方法について提示する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	成績評価は，授業内試験(80%)，授業後に提出するリアクションペーパー(20%)によって総合的に評価し，単位を認定する。
実務経験と担当科目内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
保育心理演習	コース選択科目	演 習	1	2	K3S703

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
阿部 千春	○	前 期	選 択			

授 業 概 要	保育・幼児教育の現場で出会う心理的な問題を取り上げ，それらの理解の仕方と対応方法について検討する。
到 達 目 標	・具体的な事例を通して，保育・教育実践に生かせる専門的知識と技術を習得するとともに，複眼的視点をもって他者と協力して問題解決に取り組む態度を身につけることができる。 ・アセスメントを基に，より適切な対応策や対応する上での留意点等について検討することができる。
授 業 の 方 法	講義資料を用い，講義を行った後で，グループワークやケーススタディなどアクティブラーニングの手法を取り入れた演習を行う。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となる。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	事前学習として，次の授業で取り上げるテーマについて授業で紹介する書籍などを読んで予習する。(1時間) 事後学習として，講義資料や関連する書籍を読むなどして，復習する。(1時間)
履 修 条 件	特になし

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	生活習慣について
2	乳幼児期における心理的特性とその対応	10	事例検討(生活習慣について)
3	児童期における心理的特性とその対応	11	言葉の遅れについて
4	子どもの心の問題と保育・教育相談① 心理検査法について	12	事例検討(言葉の遅れについて)
5	子どもの心の問題と保育・教育相談② 事例を通して考える	13	ソーシャルスキルについて
6	アセスメントの基礎	14	事例検討(ソーシャルスキルについて)
7	事例検討の方法①	15	講義総括
8	事例検討の方法②		

教科書・参考文献	教科書：なし，参考文献： 藤原義博監修「保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド」学苑社
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	テスト解説を行うことで，誤答問題の見直しができるようにする。また，具体的な学習方法について提示する。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」「2」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	成績評価は，授業内試験(80%)，授業後に提出するリアクションペーパー(20%)によって総合的に評価し，単位を認定する。
実務経験と担当科目 内容との関連	

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
幼児総合研究	自由選択科目	演 習	2	2	K4F101

担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格		
				幼	保	社
山崎 理恵子	○	集 中	選 択			

授 業 概 要	運動遊びの実践を通し、運動の楽しさやダンスの特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。(柔軟性・協調性・リズム感も養う)
到 達 目 標	運動遊びの実践を通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とし、舞台発表を体験する。
授 業 の 方 法	主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し，運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して学習する。(柔軟性・協調性・リズム感も養う)
予習・復習等及び必要時間(時間)	創作ダンスの振り作成案などの予習が必要である。(2 時間程度)振付の確認・練習の復習が必要(1時間程度)
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	表現遊び(ダンス)基礎的な動き	9	表現遊び(ダンス)⑧「振付」
2	表現遊び(ダンス)基礎的な動き	10	表現遊び(ダンス)⑨「振付」
3	表現遊び(ダンス)② 「基礎的な動き、サビの振付」	11	表現遊び(ダンス)⑩「振付通し」
4	表現遊び(ダンス)③「基礎的な動き、サビの振付」	12	表現遊び(ダンス)⑪「振付通し」
5	表現遊び(ダンス)④「基礎的な動き、振付」	13	表現遊び(ダンス)⑫「作品完成」
6	表現遊び(ダンス)⑤「スキルアップ、振付」	14	表現遊び(ダンス)⑬「舞台にてリハーサル」
7	表現遊び(ダンス)⑥「スキルアップ、振付」	15	発表
8	表現遊び(ダンス)⑦「スキルアップ、振付」		

教科書・参考文献	なし
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	単元ごとにフィードバックを行う。要点を再確認した後、遊びやねらいに応じた指導・援助方法について理解を深める。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「2」「3」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。
成績評価の方法及び基準	実技、その他を総合的に評価し、60 点以上で合格とし、1年前期の評価と合わせて総合評価となる。
実務経験と担当科目内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
国際保育理解	自由選択科目	演 習	1	1・2	K2F102
担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格	
こども学科担当教		集 中	選 択	幼 保 社	

授 業 概 要	世界がグローバル化している時代にあって、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を行う。
到 達 目 標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。
授 業 の 方 法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行う。
予習・復習等 及び必要時間（時間）	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの1 時間ほどの事前学習が必要。
履 修 条 件	学年・学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大・大学の学生の参加も可能。

授 業 計 画

1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行
4	事前研修 韓国の衣食住文化	12	研修旅行
5	事前研修 海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行
6	研修旅行	14	研修旅行
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ
8	研修旅行		

教科書・参考文献	なし
課 題 （レポート・テストを含む） に対するフィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「4」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	事前研修への参加状況40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、 レポート30%、による総合評価。
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

科 目 名	分 類	授業区分	単 位	年 次	ナンバリング
ウインタースポーツ	自由選択科目	演 習	1	2	K0F103
担当教員氏名	アクティブラーニング	開講期	卒業要件	資 格	
渡谷 能孝		集 中	選 択	幼 保 社	

授 業 概 要	スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。
到 達 目 標	スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。
授 業 の 方 法	後期講義終了後、集中講義を行います。実施地は函館七飯スキー場。
予習・復習等 及び必要時間(時間)	毎日の振り返りと記録に1時間、用具の準備・整備・管理等準備と予習に30分及び健康管理
履 修 条 件	特にありません

授 業 計 画

1	ガイダンス	9	ごくゆるい斜面での練習
2	ウィンタースポーツの特性と学習計画	10	長い距離の滑走
3	スキーの歴史、スノーボードの歴史	11	様々なリズムでの滑走
4	ウィンタースポーツと安全	12	大まわり、中まわり、小まわり
5	上達するための練習過程	13	技能に合ったスピード、斜面
6	用具・用品についての基礎知識	14	ターンの質の向上
7	用具・用品の取り扱い方	15	斜度、雪質などの状況に対応した滑り
8	基本姿勢と基本動作の確認		

教科書・参考文献	なし
課 題 (レポート・テストを含む) に対するフィードバックの方法	最終日に総括として、担当教員よりまとめがあります。
学習成果との関連	当該学科の学習成果「1」に該当する科目である。
卒業認定・学位授与の 方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。
成績評価の方法 及び基準	授業内での評価100%(競技に取り組む姿勢や上達度)
実務経験と担当科目 内容との関連	なし

オフィスアワーについて（2025年度）

オフィスアワーとは

　オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。
なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。
また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

オフィスアワーの曜日・時間（曜日順）

教員氏名	曜日	時間帯
渡　谷　能　孝	月曜日	16:25～17:25
伊　藤　　聡	月曜日	16:25～17:25
渋　田　昌　士	月曜日	16:25～17:25
太　田　　望	月曜日	16:25～17:25
工　藤　絵　里	月曜日	16:25～17:25
土　川　千　枝	火曜日	16:25～17:25
藤　村　　敦	水曜日	16:25～17:25
奥　崎　敏　之	水曜日	16:25～17:25
土　谷　育　代	水曜日	16:25～17:25
阿　部　千　春	木曜日	16:25～17:25
土　橋　史　人	木曜日	16:25～17:25
今　在　景　子	木曜日	16:25～17:25
伊　藤　好　一	金曜日	16:25～17:25
村　田　あきの	金曜日	16:25～17:25